

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査

結果報告書

(19～39歳)

平成31年（2019年）3月

茨木市

目 次

I. 調査概要	3
1 調査目的	3
2 調査設計	3
3 回収結果	3
4 調査結果の見方	3
II. 調査結果	4
1 本人や家族に関する事などについて	4
2 学校に関する事について	13
3 自分自身に関する事について	16
4 仕事について	19
5 ふだんの過ごし方について	25
6 ひきこもりの状況について	30
7 悩みや相談先について	40
8 地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動	45
9 茨木市の暮らしについて	48
10 自由意見	51
III. 調査結果からみえてきた今後の課題	55

I. 調査概要

1 調査目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画（第3期）」が2019年度末で終了することから、子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者計画」を含めた、本市の子ども・若者支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「(仮称)茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」(2020～2024年度)を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の若者の日常生活や就労、社会参加等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2 調査設計

- (1) 調査地域 茨木市全域
- (2) 調査対象 19～39歳の男女個人
- (3) 対象者数 住民基本台帳から2,000人を無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配付及び郵送回収による郵送調査法(調査期間中に礼状兼督促はがきを送付)と、インターネット調査
- (6) 調査期間 平成30年12月13日(木)～平成30年12月27日(木)

3 回収結果

配付数	回収数	回収率
2,000	677	33.9%

4 調査結果の見方

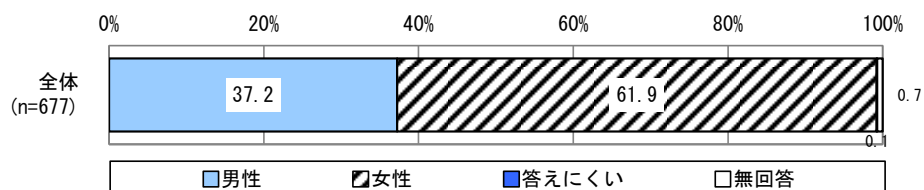
- (1) 図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示す。
- (2) 回答比率(%)は回答者数(n)を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。小数点以下の端数処理の関係で、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- (3) 複数回答(すべてに○、3つまでに○等)を依頼した質問は、回答比率(%)の計は100.0%を超える。
- (4) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

Ⅱ. 調査結果

1 本人や家族に関することなどについて

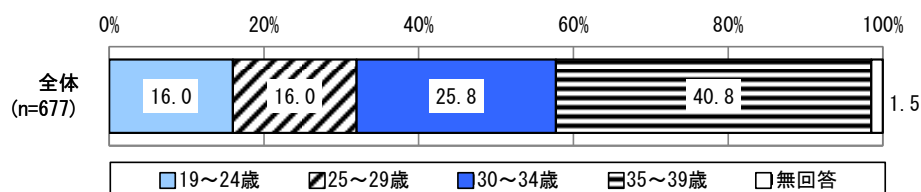
(1) 性別〔問1〕

回答者の性別は、「男性」37.2%、「女性」61.9%となっている。



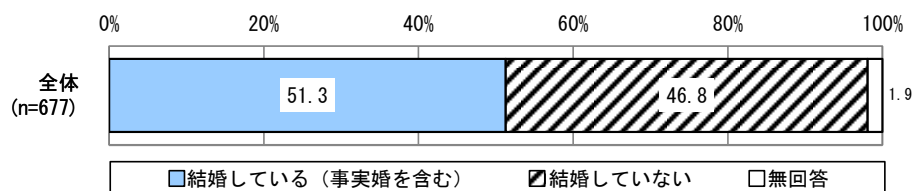
(2) 年齢〔問2〕

年齢は、「35～39歳」が40.8%で最も多く、次いで「30～34歳」が25.8%、「19～24歳」と「25～29歳」がそれぞれ16.0%で続いている。



(3) 結婚状況〔問3〕

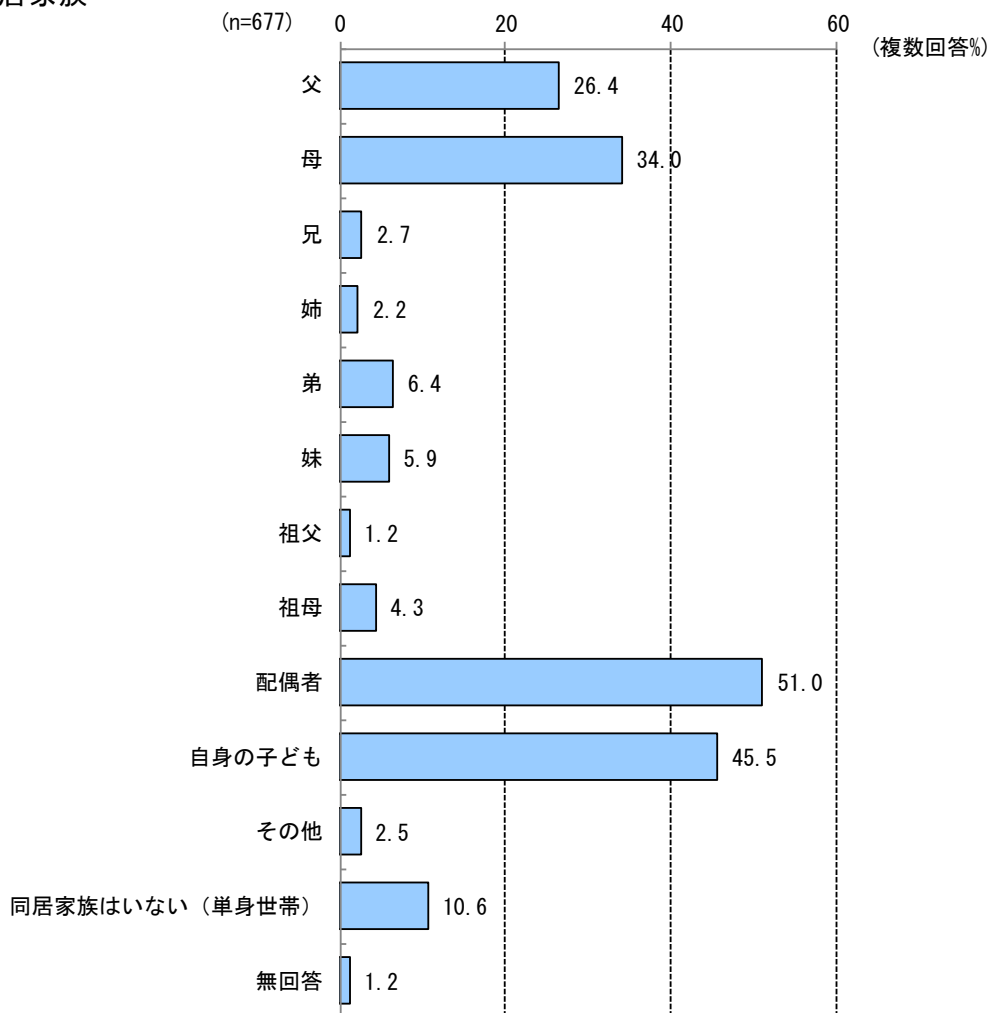
結婚状況は、「結婚している（事実婚を含む）」が51.3%、「結婚していない」が46.8%となっている。



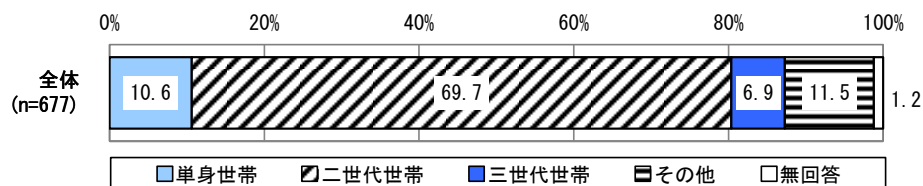
(4) 同居家族〔問4〕

家族形態は、「二世世代世帯」が69.7%で最も多く、次いで「単身世帯」が10.6%、「三世世代世帯」が6.9%となっている。

□同居家族

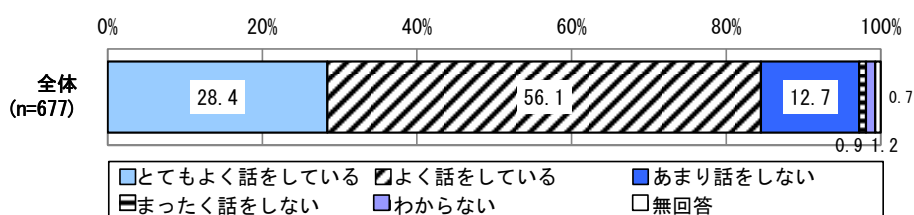


□家族形態



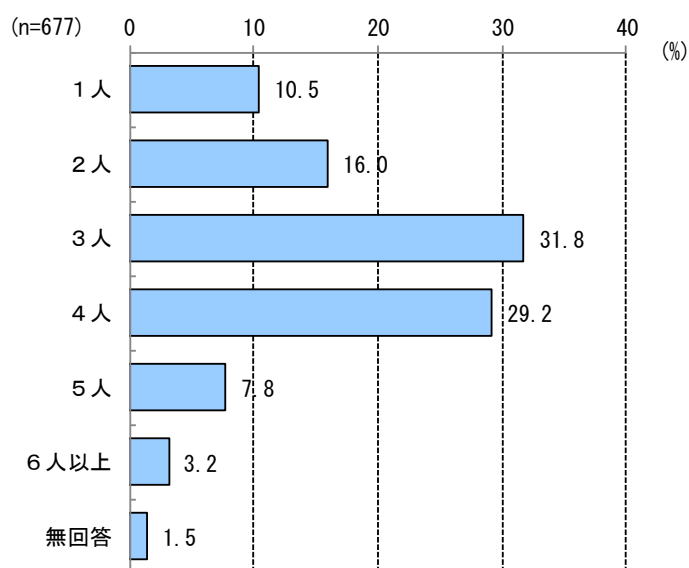
(5) 家族との会話の状況〔問5〕

家族とふだん「よく話をしている」が56.1%で最も多く、次いで「とてもよく話をしている」が28.4%で、「あまり話をしない」は12.7%となっている。



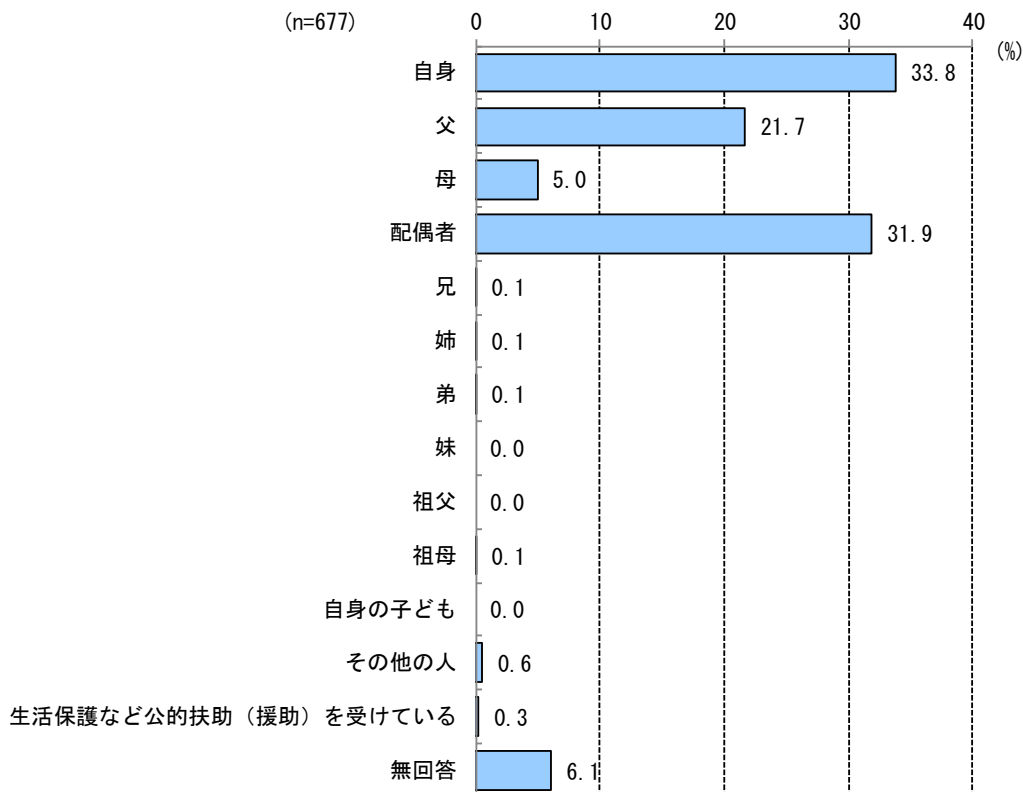
(6) 同居する家族の人数〔問6〕

同居家族の人数は、「3人」が31.8%で最も多く、次いで「4人」が29.2%、「2人」が16.0%となっている。



(7) 主たる生計者〔問7〕

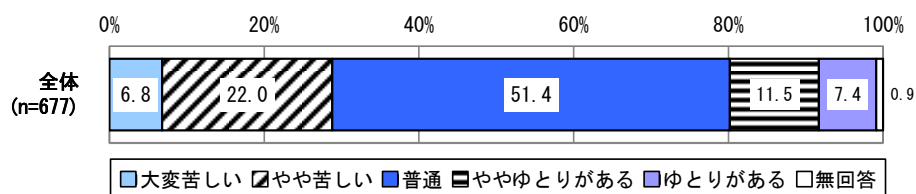
家庭での主たる生計者は、「自身」(33.8%)と「配偶者」(31.9%)が多い。これらに次いで「父」が21.7%となっている。



(8) 現在の暮らしの状況〔問8〕

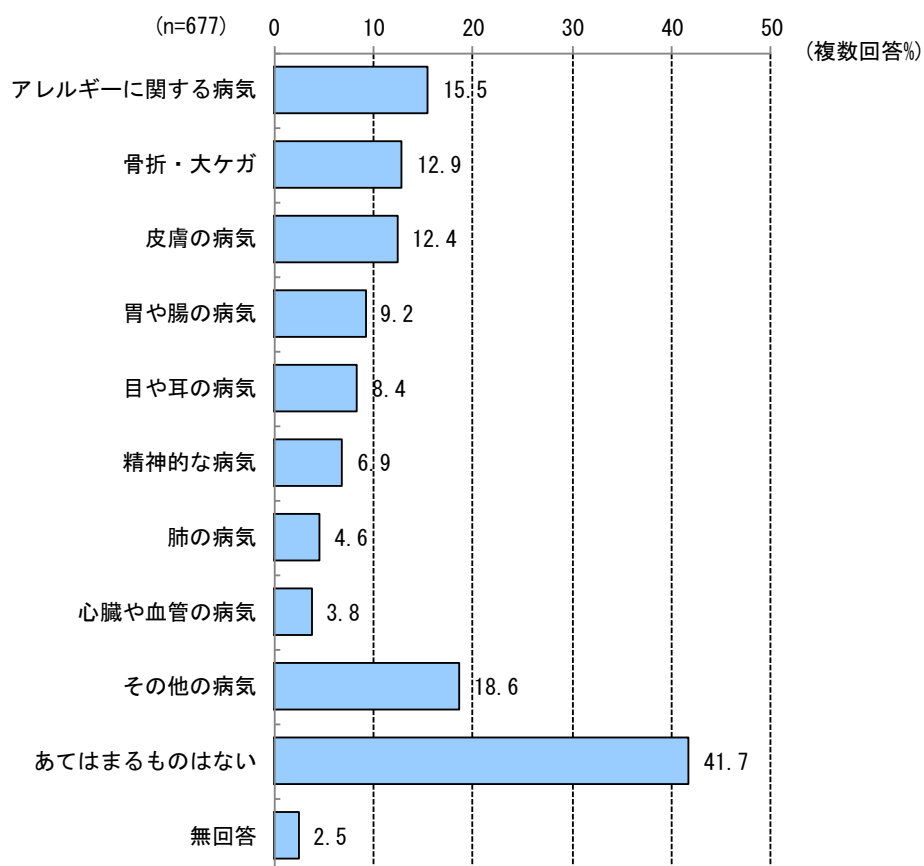
現在の暮らしの状況について、「普通」が51.4%で最も多い。これに次いで「やや苦しい」が22.0%で、「大変苦しい」と「やや苦しい」の割合を合わせた『苦しい』は28.8%となっている。

一方、『ゆとりがある』(「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の割合の合計)は18.9%となっている。



(9) 病気やけがでの通院や入院の経験〔問9〕

「あてはまるものはない」が41.7%となっている。これまで通院や入院をしたことがある病気について回答で多いものは、「アレルギーに関する病気」(15.5%)である。これに次いで「骨折・大ケガ」(12.9%)で、以下「皮膚の病気」(12.4%)、「胃や腸の病気」(9.2%)、「目や耳の病気」(8.4%)、「精神的な病気」(6.9%)などが続く。



(10) 悩みや困りごとの状況

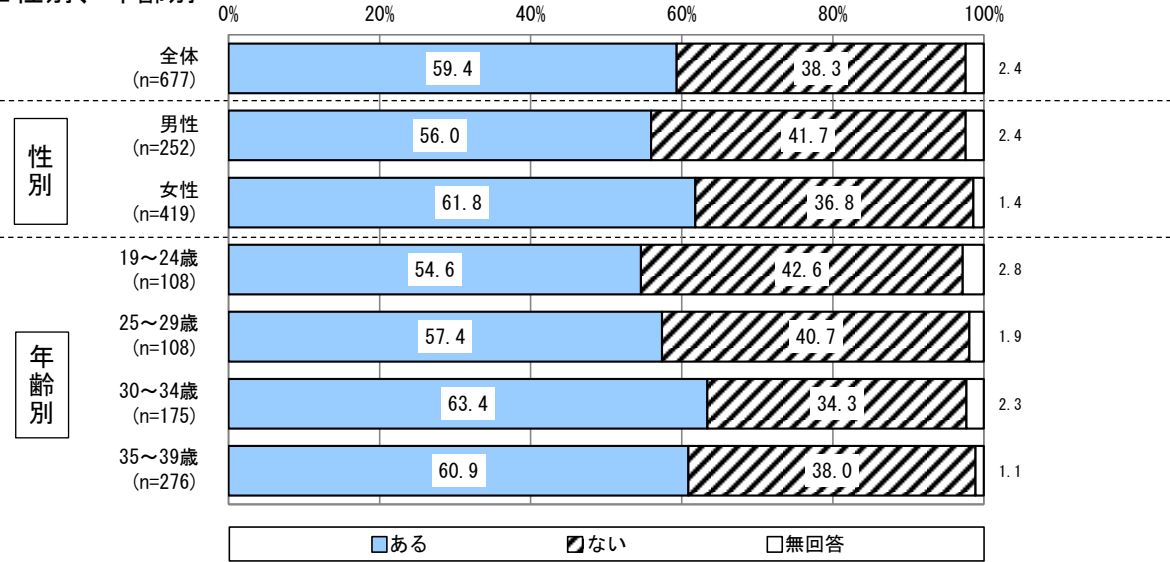
① 悩みや困っていることの有無〔問10〕

全体では、悩みや困っていることがある割合は、59.4%となっている。

性別では、悩みや困っていることがある割合は、男性56.0%に対し女性61.8%で、女性の割合が高い。

年齢別では、悩みや困っていることがある割合は、30～34歳の割合が63.4%で最も高く、次いで35～39歳の60.9%となっている。

□ 性別、年齢別



①で「ある」を選んだ方

② 悩みや困っていることの内容〔問11〕

悩みや困っていることの内容は、全体では「お金のこと」が50.0%で最も多く、次いで「自分自身の健康のこと」が29.9%となっている。以下、「性格のこと」(24.1%)、「親のこと」(21.1%)、「容姿のこと」(14.4%)、「勉強や進学のこと」(11.7%)などが続く。

性別では、男女とも「お金のこと」が最も多く、次いで「自分自身の健康こと」や「性格のこと」が多い。

年齢別では、19～24歳は「お金のこと」に加え、「性格のこと」が多くなっている。これに次いで「勉強や進学のこと」が多い。それ以上の年代では、「お金のこと」が最も多く、これに次いで「自分自身の健康のこと」が多くなっている。また、30歳代では「親のこと」が高くなっている。

	n	(複数回答%)														無回答										
		性格のこと		容姿のこと		自分自身の健康のこと		きょうだい		親のこと		友達や仲間の		異性のこと		勉強や進学のこと		お金のこと		性に関する		その他				
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%			
全体	402	97	24.1	58	14.4	120	29.9	18	4.5	85	21.1	26	6.5	33	8.2	47	11.7	201	50.0	6	1.5	125	31.1	3	0.7	
性別	男性	141	31	22.0	20	14.2	40	28.4	3	2.1	23	16.3	10	7.1	14	9.9	21	14.9	67	47.5	5	3.5	35	24.8	1	0.7
	女性	259	61	25.5	38	14.7	79	30.5	15	5.8	62	23.9	16	6.2	19	7.3	26	10.0	134	51.7	1	0.4	89	34.4	2	0.8
年齢別	19～24歳	59	23	39.0	17	28.8	15	25.4	4	6.8	8	13.6	12	20.3	9	15.3	19	32.2	23	39.0	3	5.1	8	13.6	1	1.7
	25～29歳	62	14	22.6	9	14.5	16	25.8	4	6.5	10	16.1	4	6.5	6	9.7	5	8.1	35	56.5	-	-	20	32.3	-	-
	30～34歳	111	25	22.5	16	14.4	29	26.1	2	1.8	29	26.1	3	2.7	8	7.2	9	8.1	56	50.5	1	0.9	40	36.0	1	0.9
	35～39歳	168	34	20.2	15	8.9	59	35.1	8	4.8	37	22.0	6	3.6	10	6.0	14	8.3	87	51.8	2	1.2	56	33.3	1	0.6

□その他記述

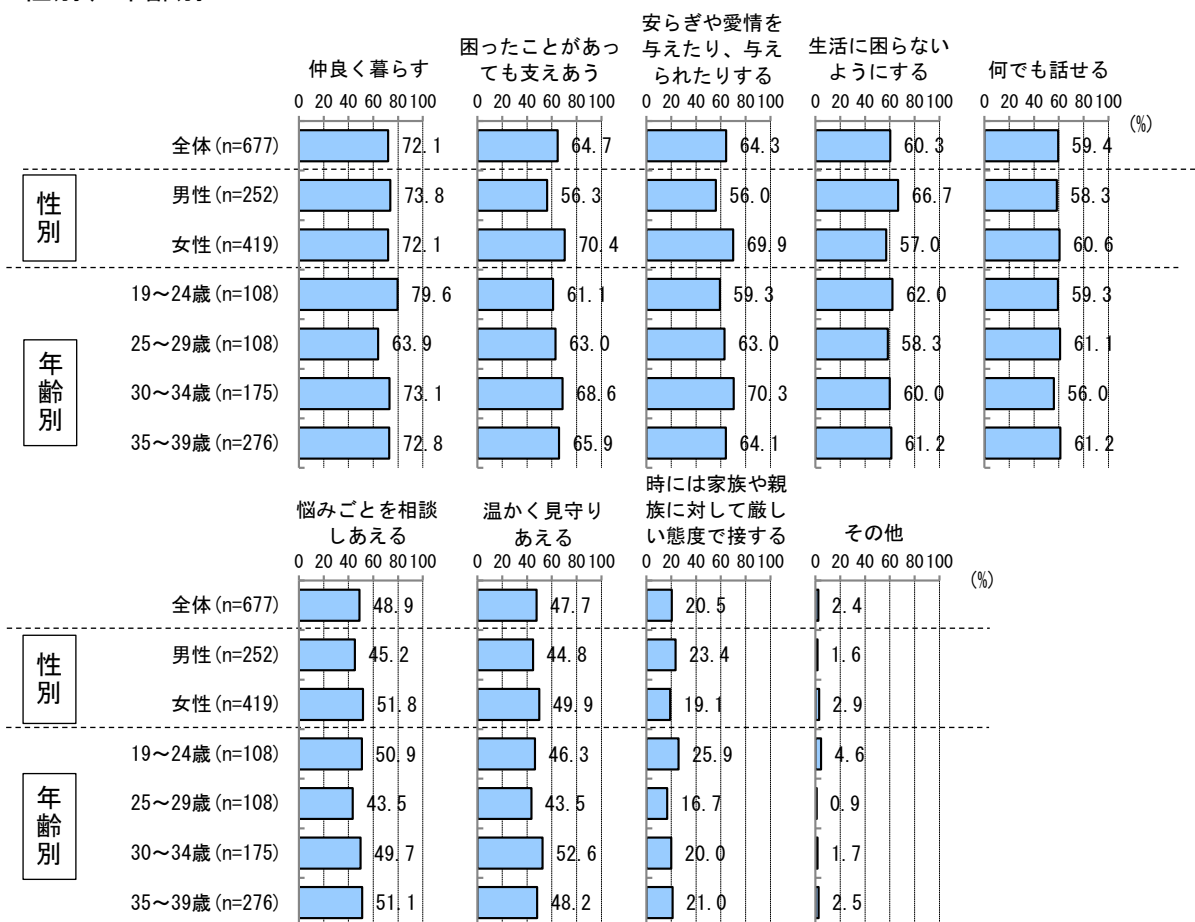
	件数 (件)	割合 (%)
仕事のこと	47	37.6
子どものこと	32	25.6
子育てのこと	15	12.0
将来のこと	4	3.2
不妊	3	2.4
結婚のこと	3	2.4
近所づきあいのこと	2	1.6
夫のこと	2	1.6
P T A ・自治会 ・こども会のこと	2	1.6
介護のこと	2	1.6
いろいろ	2	1.6
障がい・病気のこと	2	1.6
仕事と子育ての両立について	2	1.6
その他	8	6.4
計 (回答者数)	125	100.0

(11) 理想とする家庭〔問12〕

全体では、「仲良く暮らす」が72.1%で最も多い。これに次いで「困ったことがあっても支えあう」(64.7%)で、以下、「安らぎや愛情を与えたり、与えられたりする」(64.3%)、「生活に困らないようにする」(60.3%)、「何でも話せる」(59.4%)が続いている。

性別では、男女とも「仲良く暮らす」が最も多く、これに次いで男性は「生活に困らないようにする」、女性は「困ったことがあっても支えあう」が多くなっている。「困ったことがあっても支えあう」「安らぎや愛情を与えたり、与えられたりする」は、男性に比べ女性の割合のほうが10ポイント以上高い。

□性別、年齢別



(複数回答)

ひきこもりリスクの有無

平成22年に内閣府が実施した「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」における「ひきこもり群」の集計方法を参考に、本調査の結果から本市でのひきこもりのリスクが高いと考えられる人を集計した。

国の調査では、社会的自立に至っているかどうかに着目して、以下のような定義を行っている。本調査についてもこの定義にならって、回答者の中からひきこもりに該当する人（リスクの高い人）を区分し集計を行った。

□ひきこもり群に関する国の定義

問26（ふだんどのくらい外出頻度）の質問で、次のいずれかに回答

- 「5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」
- 「6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
- 「7 自室からは出るが、家からは出ない」
- 「8 自室からほとんど出ない」

かつ

問28（ひきこもりの状態になってからの期間）の質問で、次のいずれかに回答

- 「2 6か月～1年未満」「3 1年～3年未満」「4 3年～5年未満」
- 「5 5年～7年未満」「6 7年以上」

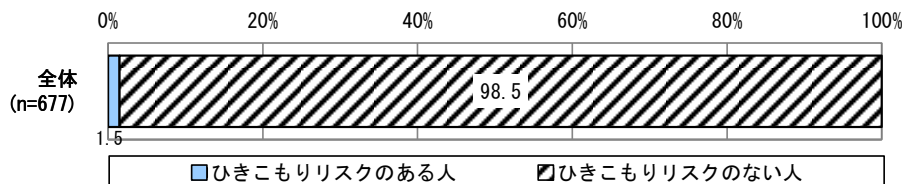
※ただし、上記のうち、次に該当する人は除く

- ・問29（ひきこもり状態になったきっかけ）の質問で、次のいずれかに回答「8 病気」「9 妊娠した」「11 その他」を選択し「自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入している場合
- ・問23（自宅でよくしていること）の質問で、「8 家事・育児」をする」と回答

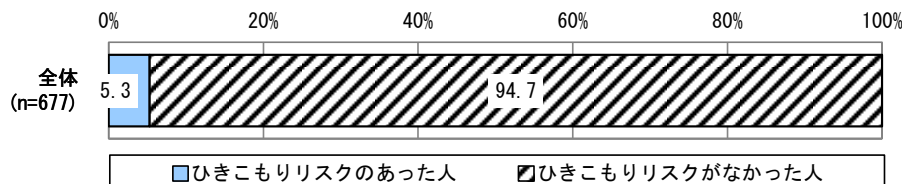
上記の定義に基づき、ひきこもりリスクが高いと考えられる人の集計結果は次のとおりである。

回答者全体では、現在「ひきこもりリスクがある人」は1.5%（10人）となっている。

□ひきこもりリスクがある人（現在）



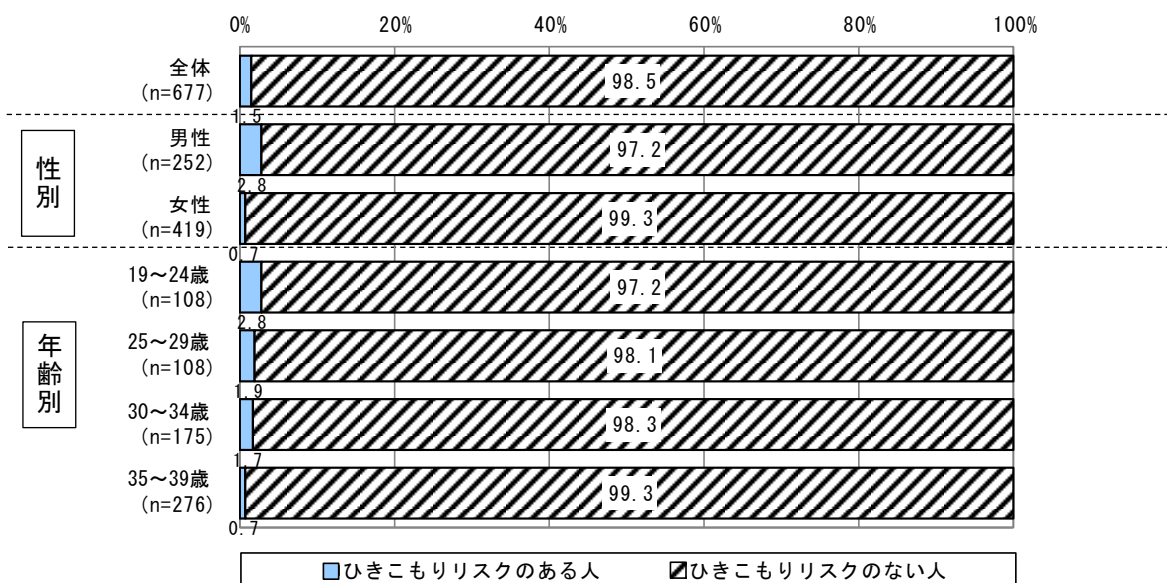
【参考】ひきこもりリスクがあった人（過去ひきこもり状態にあった人）



※過去ひきこもり状態にあった人の集計は、問38、問40、問41に基づく。

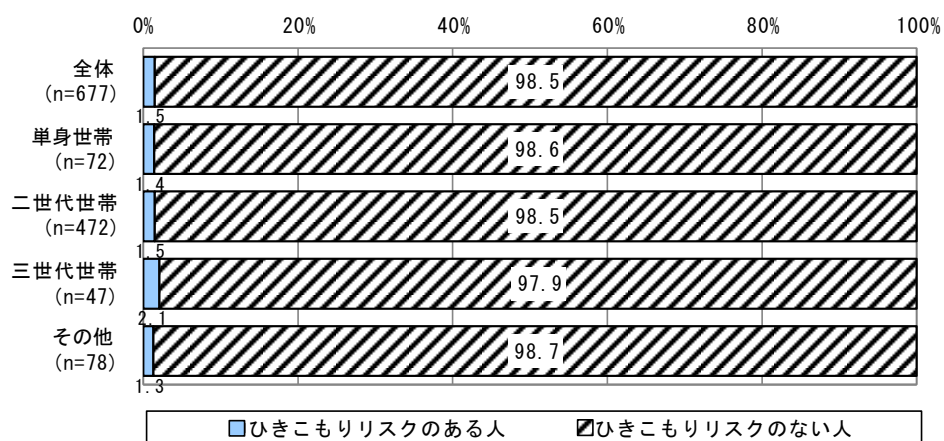
性別では、「ひきこもりリスクがある人」は、男性では2.8%、女性0.7%となっている。
 年代別では、19～24歳が2.8%で最も高くなっている。

□性別、年齢別



家族構成別では、「ひきこもりリスクがある人」は、三世帯世帯が2.1%で最も高くなっている。

□家族構成別



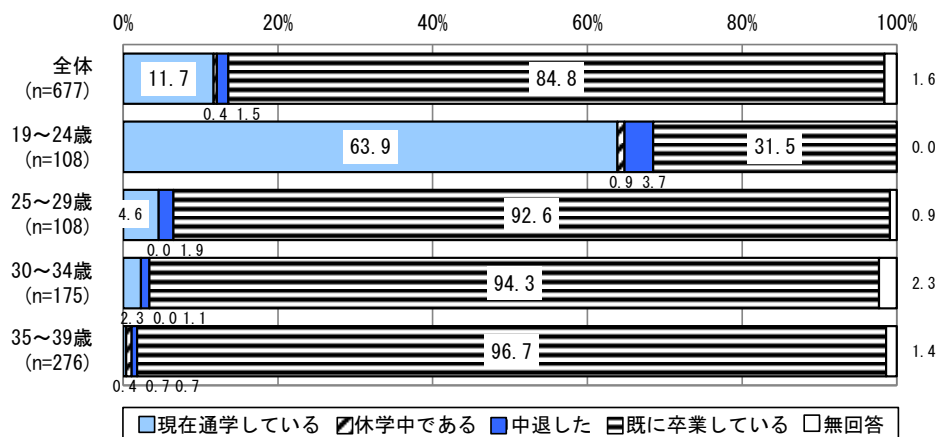
2 学校に関することについて

(1) 通学の状況〔問13〕

全体では、「既に卒業している」が84.8%を占めている。「現在通学している」は11.7%である。

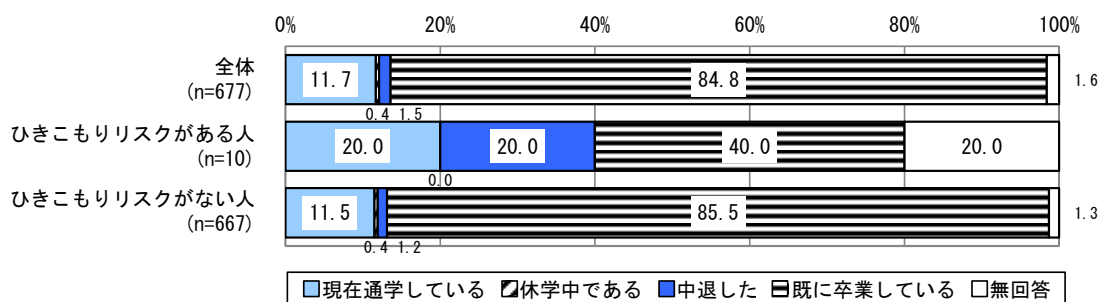
「現在通学している」割合は、19～24歳が63.9%で最も高くなっている。

□性別、年齢別



ひきこもりリスクがある人（10人）のうち、「現在通学している」「中退した」がそれぞれ2人（20.0%）ずつとなっている。

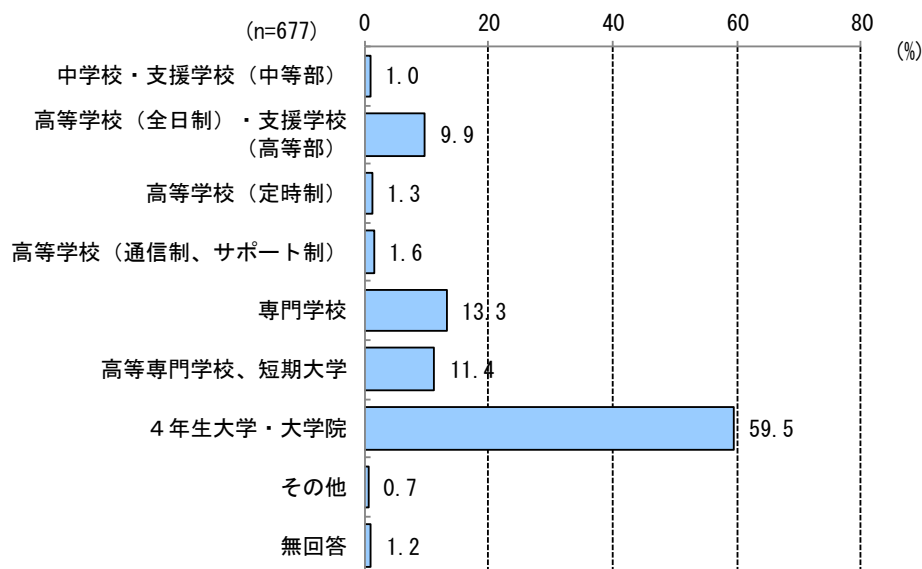
□ひきこもりリスクの有無別



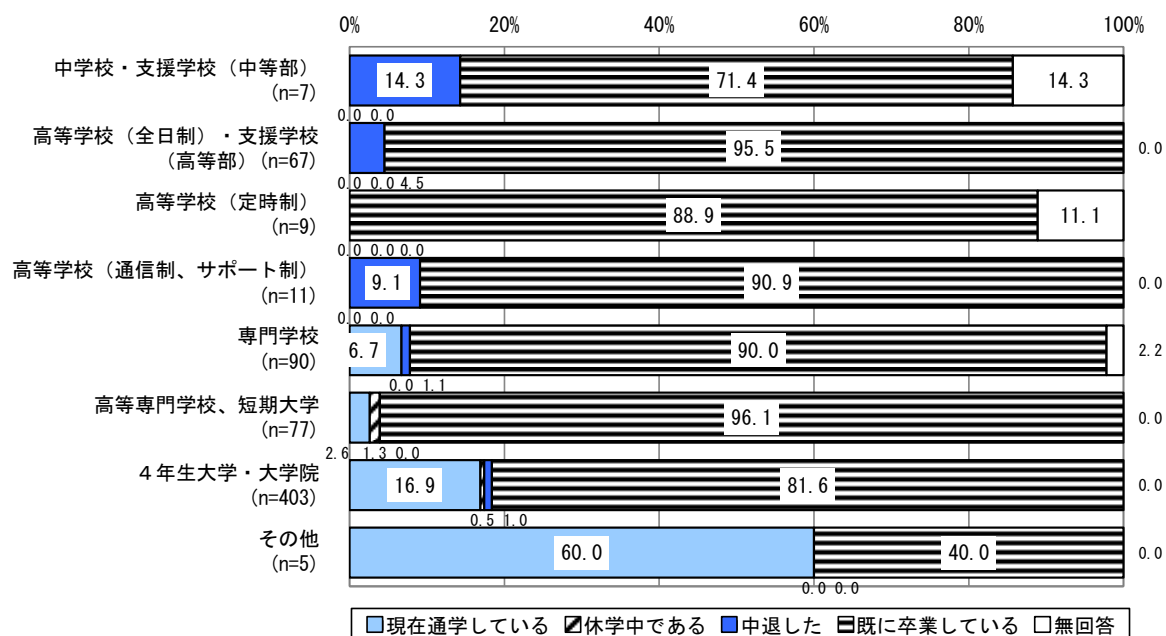
(2) 最後に通学または現在在学している学校〔問14〕

「4年生大学・大学院」が59.5%で最も多い。これに次いで「専門学校」(13.3%)で、以下、「高等専門学校、短期大学」(11.4%)、「高等学校(全日制)・支援学校(高等部)」(9.9%)である。

通学状況を見ると、いずれの学校も「既に卒業している」割合が『その他』を除き7割以上を占めている。「現在通学している」は『4年生大学・大学院』が16.9%で最も高い。

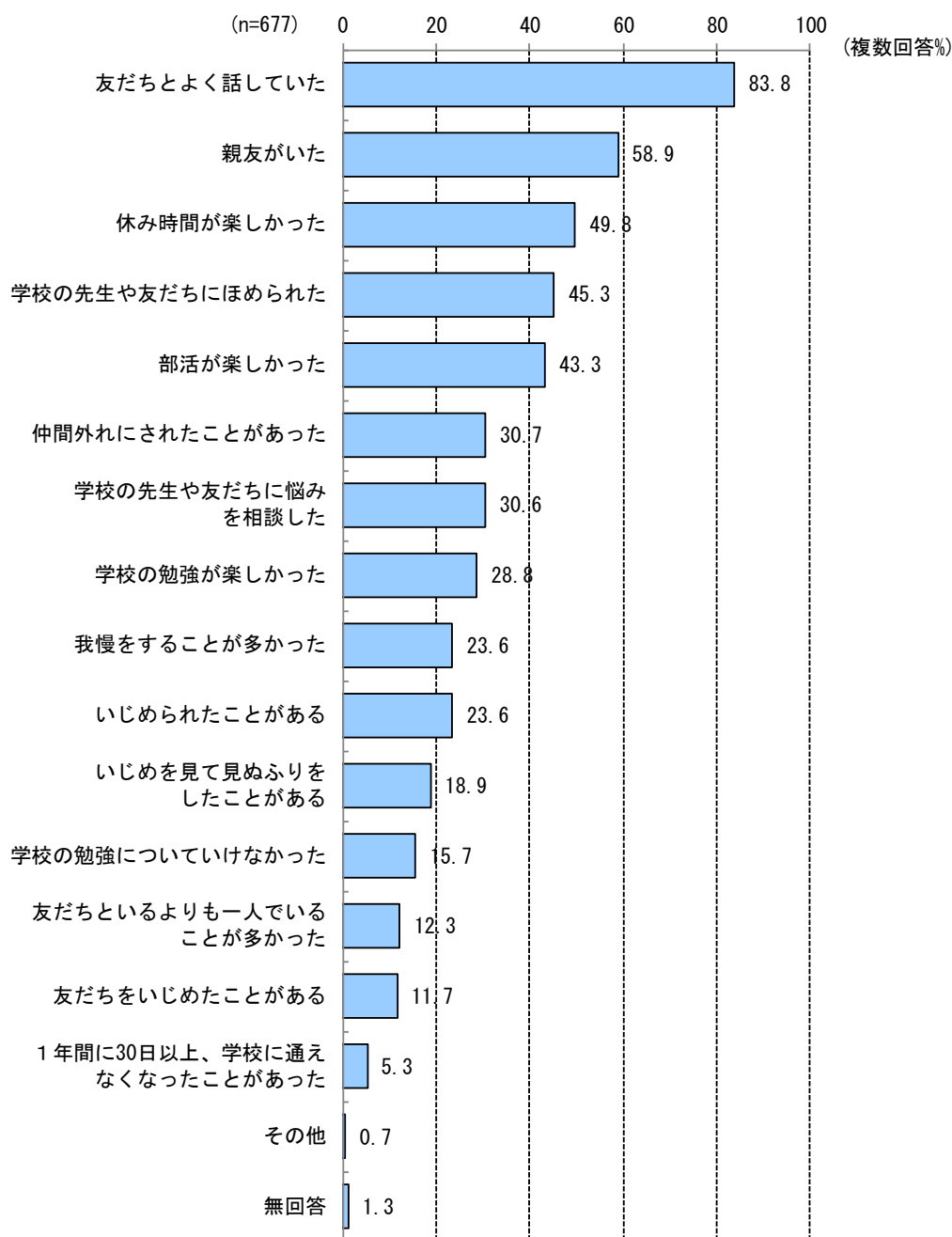


□通学校別通学状況



(3) 今までに学校で経験したこと〔問15〕

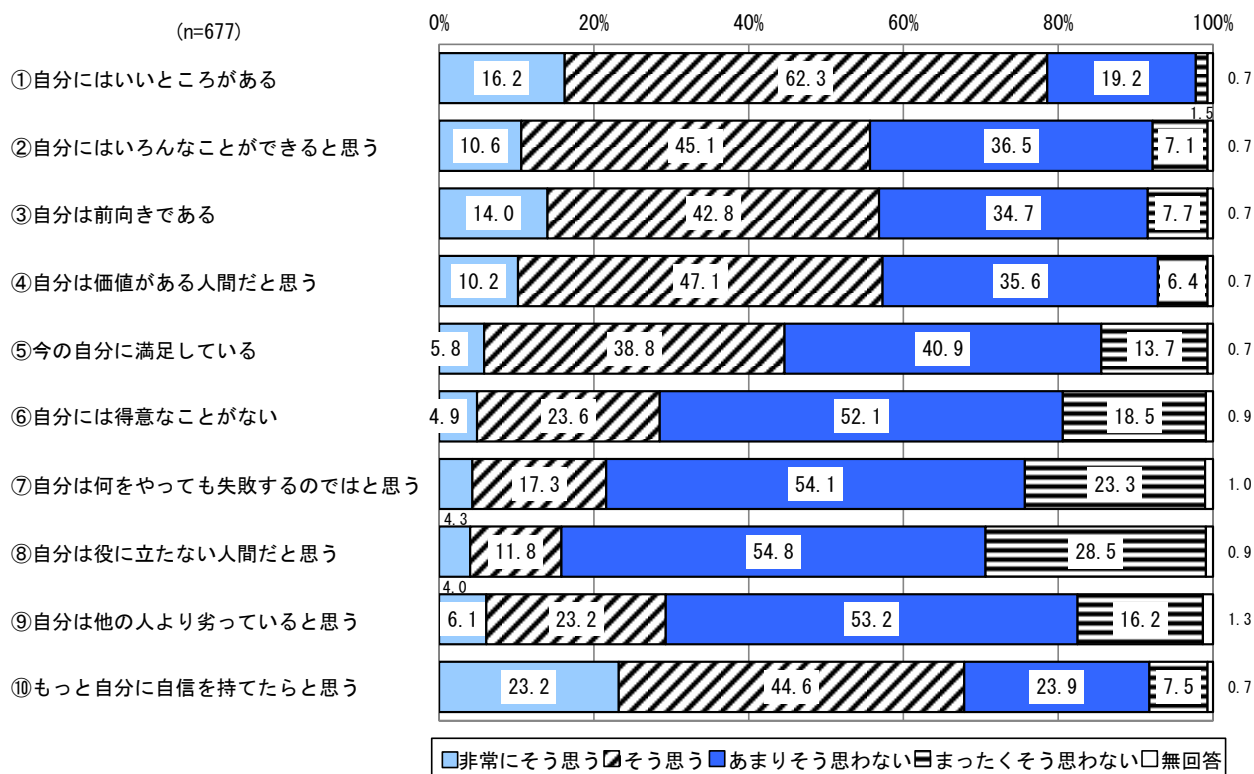
「友だちとよく話していた」が83.8%で最も多く、これに次いで「親友がいた」(58.9%)で、以下、「休み時間が楽しかった」(49.8%)、「学校の先生や友だちにほめられた」(45.3%)、「部活が楽しかった」(43.3%)が続いている。



3 自分自身に関することについて

(1) 自分自身にあてはまると思うこと〔問16〕

『そう思う』（「非常にそう思う」と「そう思う」の割合の合計）と『そう思わない』（「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」の割合の合計）との差をみると、「⑤今の自分に満足している」は、『そう思う』に比べ、『そう思わない』の割合が10ポイント高く、「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」については、『そう思わない』に比べ『そう思う』の割合のほうが36.4ポイント上回っている。



□ 『そう思う』計と『そう思わない』計の差（①～⑤は a - b、⑥～⑩は b - a）
(%)

	a そう思う	b そう思わない	aとbとの差
①自分にはいいところがある	78.5	20.7	57.8
②自分にはいろんなことができると思う	55.7	43.6	12.1
③自分は前向きである	56.8	42.4	14.4
④自分は価値がある人間だと思う	57.3	42.0	15.3
⑤今の自分に満足している	44.6	54.6	▲ 10.0
⑥自分には得意なことがない	28.5	70.6	42.1
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	21.6	77.4	55.8
⑧自分は役に立たない人間だと思う	15.8	83.3	67.5
⑨自分は他の人より劣っていると思う	29.3	69.4	40.1
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	67.8	31.4	▲ 36.4

年齢別で、『そう思う』と『そう思わない』との差をみた

19～24歳は、「②自分にはいろんなことができると思う」「③自分は前向きである」「④自分は価値がある人間だと思う」の各意見については、『そう思わない』の割合が『そう思う』をやや上回っている。「⑤今の自分に満足している」は、『そう思う』に比べ、『そう思わない』の割合が29.6ポイント高く、「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」については、『そう思わない』に比べ『そう思う』の割合のほうが53.6ポイント上回っている。

25～29歳は、「⑤今の自分に満足している」は、『そう思う』に比べ『そう思わない』の割合が6.5ポイント高く、「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」については、『そう思わない』に比べ『そう思う』の割合のほうが56.5ポイント上回っている。

29～34歳、35～39歳も、「⑤今の自分に満足している」では、『そう思う』に比べも『そう思わない』の割合が高く、また「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」は、『そう思わない』に比べ『そう思う』の割合のほうが高くなっている。

□年齢別 『そう思う』計と『そう思わない』計の差（①～⑤は a - b、⑥～⑩は b - a）

【19～24 歳】

	a そう思う	b そう思わない	aとbとの差
①自分にはいいところがある	69.5	30.6	38.9
②自分にはいろんなことができると思う	48.2	51.8	▲ 3.6
③自分は前向きである	45.4	54.6	▲ 9.2
④自分は価値がある人間だと思う	49.1	50.9	▲ 1.8
⑤今の自分に満足している	35.2	64.8	▲ 29.6
⑥自分には得意なことがない	37.1	63.0	25.9
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	37.1	63.0	25.9
⑧自分は役に立たない人間だと思う	24.1	76.0	51.9
⑨自分は他の人より劣っていると思う	42.6	57.4	14.8
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	76.8	23.2	▲ 53.6

【25～29 歳】

	a そう思う	b そう思わない	aとbとの差
①自分にはいいところがある	76.8	22.2	54.6
②自分にはいろんなことができると思う	53.7	45.4	8.3
③自分は前向きである	54.6	44.4	10.2
④自分は価値がある人間だと思う	52.8	46.3	6.5
⑤今の自分に満足している	46.3	52.8	▲ 6.5
⑥自分には得意なことがない	33.4	65.7	32.3
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	24.1	74.1	50.0
⑧自分は役に立たない人間だと思う	21.3	77.8	56.5
⑨自分は他の人より劣っていると思う	30.5	68.6	38.1
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	77.8	21.3	▲ 56.5

□年齢別 『そう思う』計と『そう思わない』計の差（①～⑤は a - b、⑥～⑩は b - a）

【30～34 歳】

(%)

	a そう思う	b そう思わない	a と b との差
①自分にはいいところがある	78.3	20.6	57.7
②自分にはいろんなことができると思う	60.0	38.8	21.2
③自分は前向きである	58.3	40.5	17.8
④自分は価値がある人間だと思う	60.5	38.3	22.2
⑤今の自分に満足している	48.0	50.9	▲ 2.9
⑥自分には得意なことがない	23.4	75.4	52.0
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	20.0	78.8	58.8
⑧自分は役に立たない人間だと思う	17.1	81.8	64.7
⑨自分は他の人より劣っていると思う	31.5	66.9	35.4
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	66.3	32.5	▲ 33.8

【35～39 歳】

(%)

	a そう思う	b そう思わない	a と b との差
①自分にはいいところがある	84.0	15.9	68.1
②自分にはいろんなことができると思う	57.2	42.7	14.5
③自分は前向きである	62.3	37.7	24.6
④自分は価値がある人間だと思う	60.9	39.1	21.8
⑤今の自分に満足している	45.2	54.7	▲ 9.5
⑥自分には得意なことがない	26.8	72.9	46.1
⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	15.2	84.5	69.3
⑧自分は役に立たない人間だと思う	9.1	90.5	81.4
⑨自分は他の人より劣っていると思う	21.4	77.5	56.1
⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	61.6	38.4	▲ 23.2

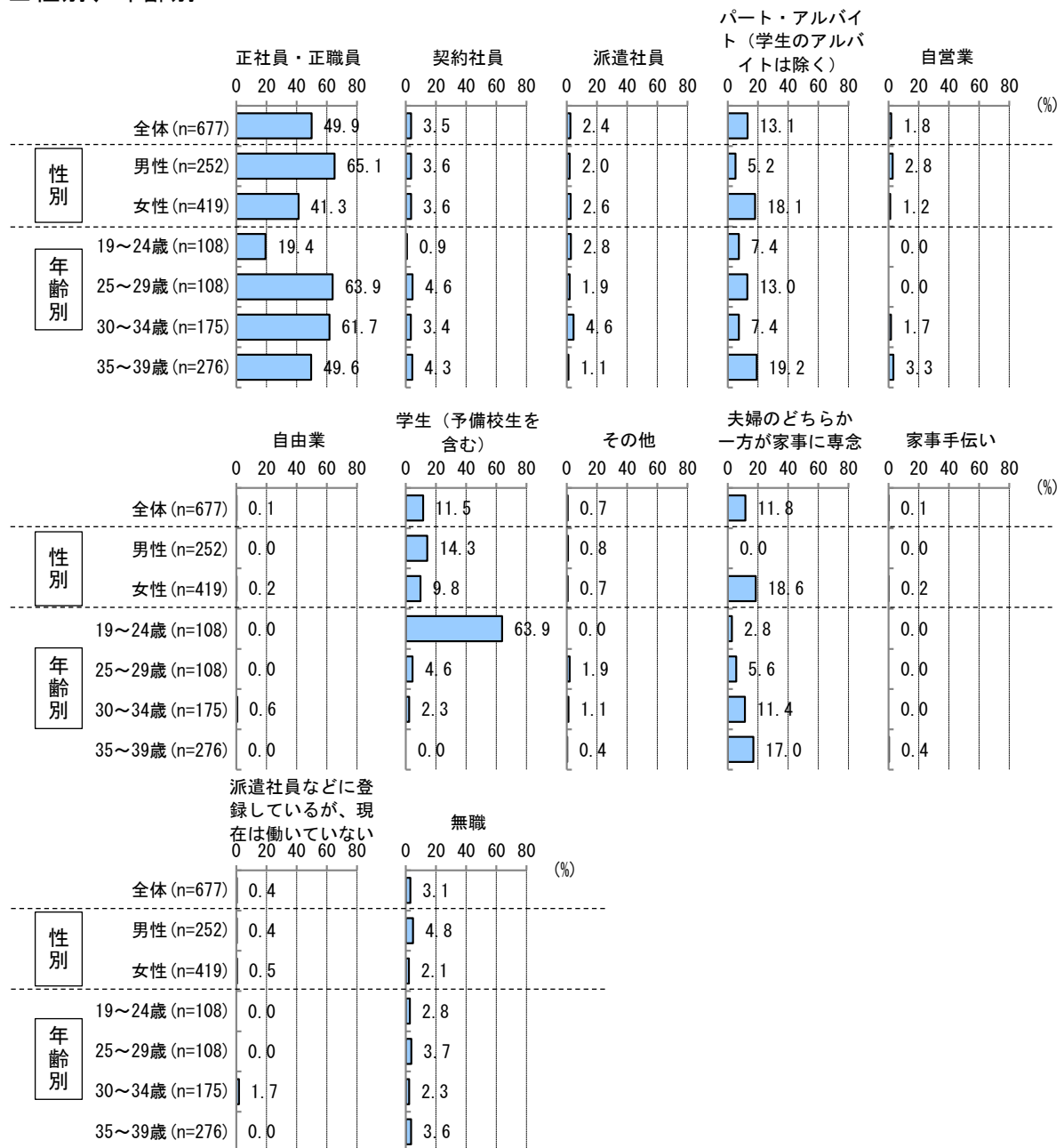
4 仕事について

(1) 現在の職業〔問17〕

現在の職業は、全体では「正社員・正職員」が49.9%で最も多い。これに次いで「パート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」が13.1%となっており、「契約社員」（3.5%）、「派遣社員」（2.4%）を合わせた非正規雇用は19.0%となっている。一方、「夫婦のどちらか一方が家事に専念」は11.8%、「学生（予備校生を含む）」は11.5%、「無職」は3.1%となっている。

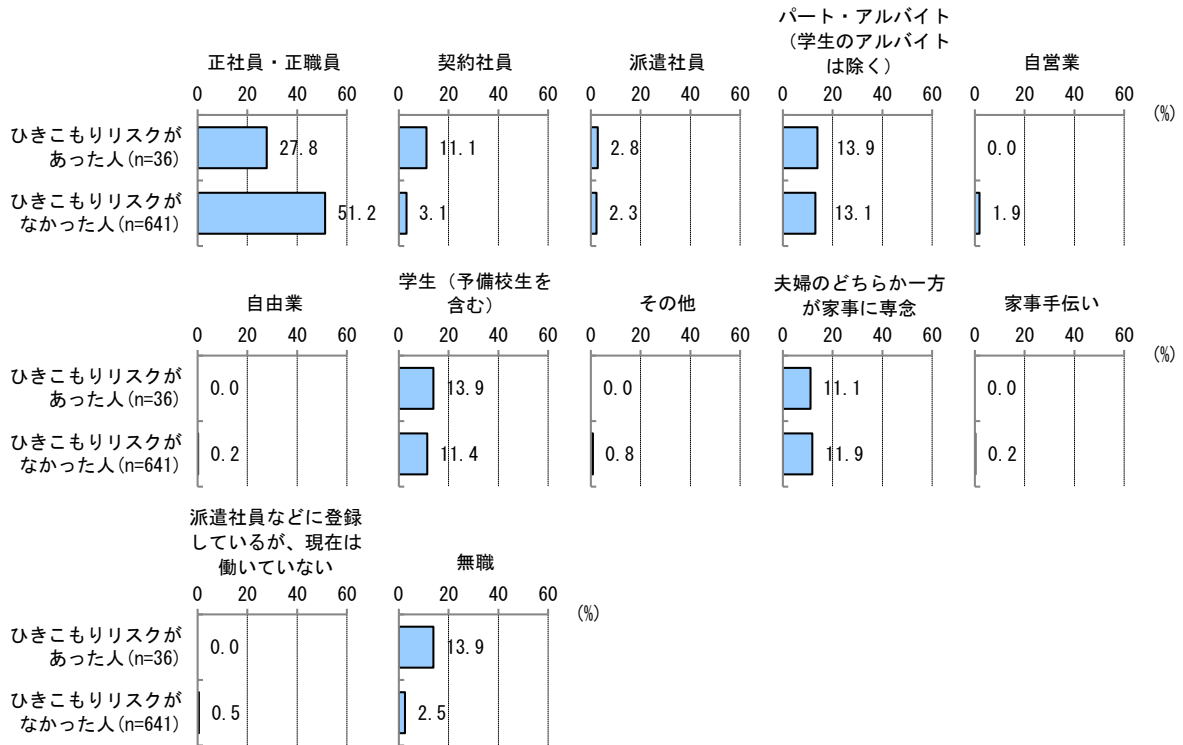
「正社員・正職員」は女性に比べ男性が高く、年齢が高くなるほど低下している。「パート・アルバイト」の割合は、性別では女性、年齢では35～39歳が高い。

□性別、年齢別



過去ひきこもりのリスクがあった人の現在の職業は、「正社員・正職員」が27.8%で最も多く、非正規雇用を含む就労割合は55.6%となっている。(ひきこもりリスクがなかった人の就労割合は71.8%)

□過去のひきこもりリスクの有無別



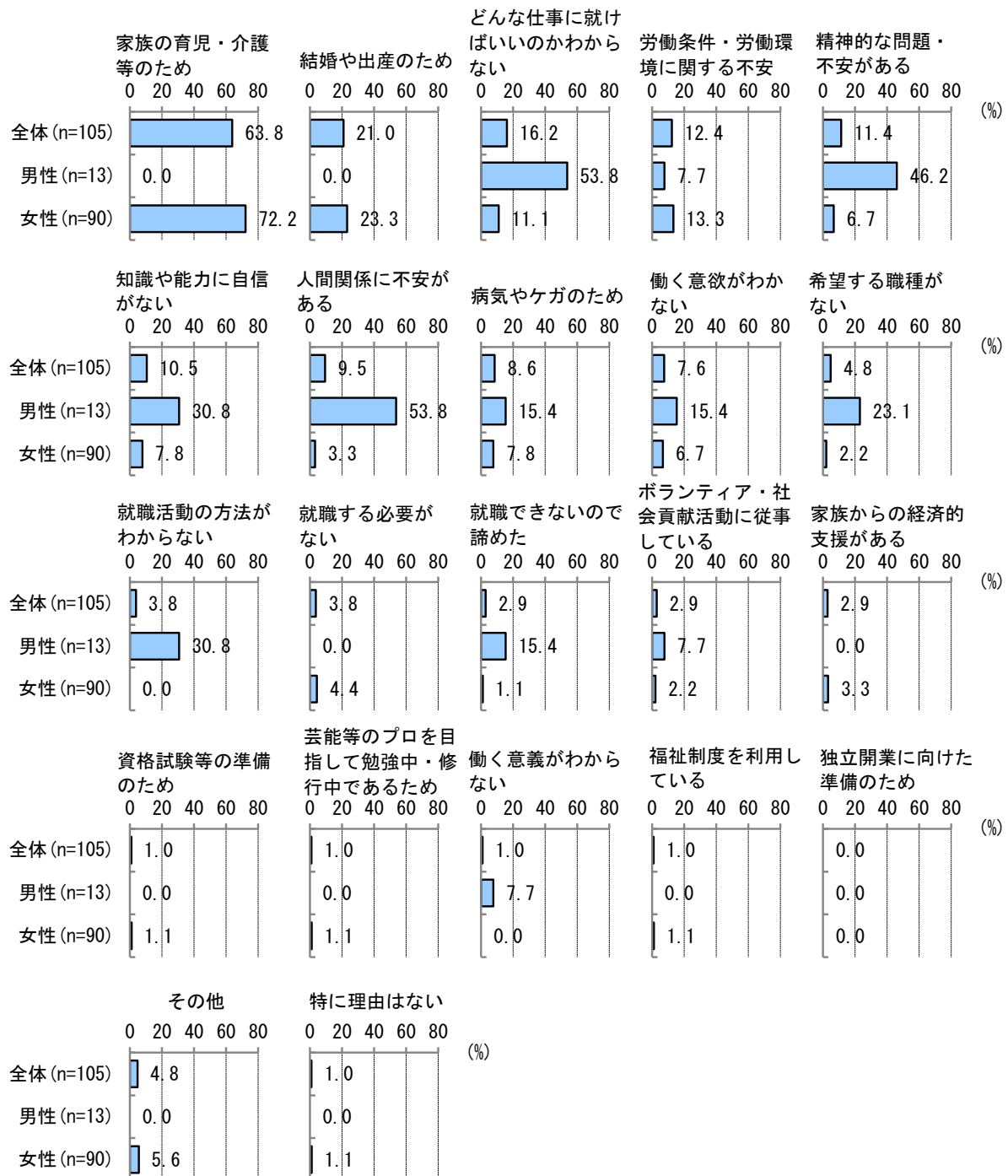
現在働いていない方

(2) 現在働いていない理由〔問18〕

仕事をしていない人に、現在働いていない理由についてたずねると、全体では、「家族の育児・介護等のため」が63.8%で最も多い。これに次いで「結婚や出産のため」が21.0%で、以下、「どんな仕事に就けばいいのかわからない」(16.2%)、「労働条件・労働環境に関する不安」(12.4%)、「精神的な問題・不安がある」(11.4%)、「知識や能力に自信がない」(10.5%)が続いている。

女性は「家族の育児・介護等のため」(72.2%)が最も多く、次いで「結婚や出産のため」(23.3%)となっている。

□性別



(複数回答)

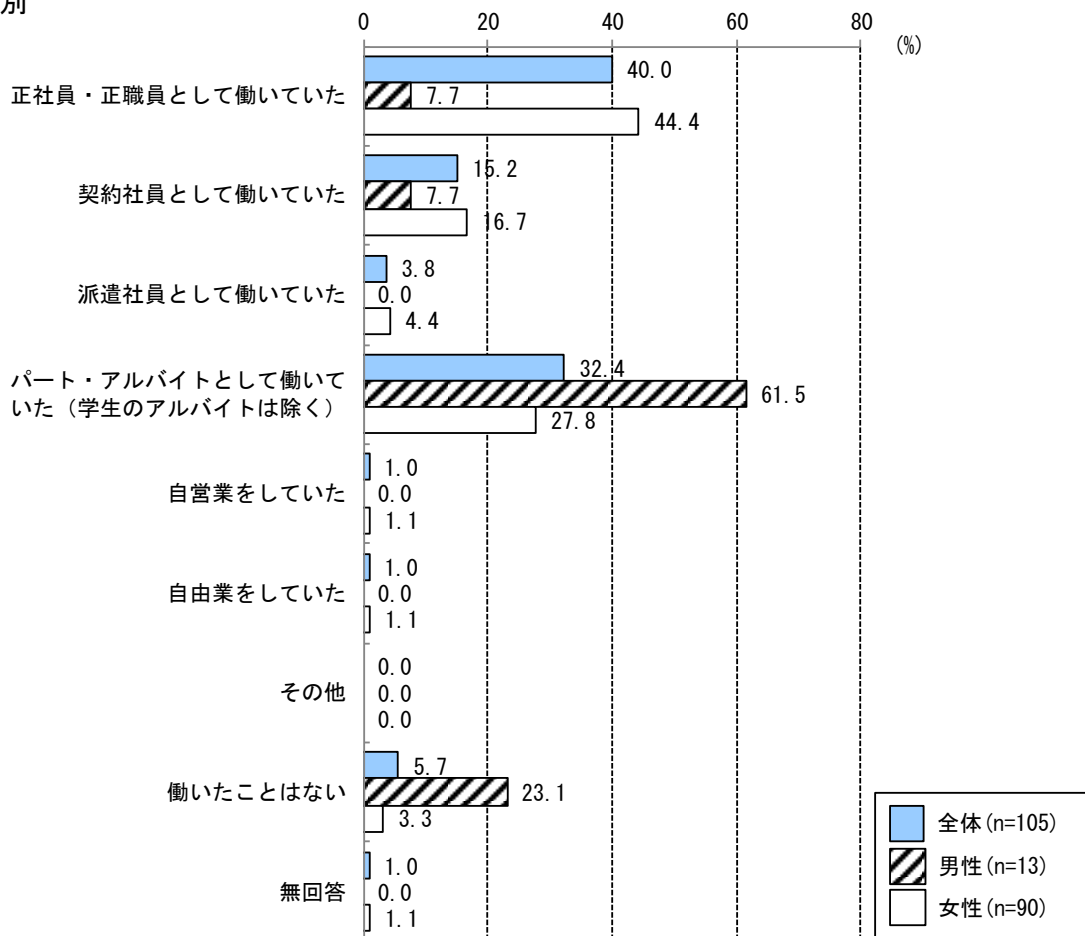
現在働いていない方

(3) 現在働いていない人の就労経験〔問19〕

現在働いていない人の過去の就労経験をみると、全体は「正社員・正職員として働いていた」が40.0%となっている。これに次いで「パート・アルバイトとして働いていた（学生のアルバイトは除く）」（32.4%）が多い。

「正社員・正職員として働いていた」は、男性（7.7%）に比べ、女性（44.4%）の割合が高い。逆に「パート・アルバイトとして働いていた」の割合は、女性（27.8%）に比べ、男性（61.5%）が高くなっている。

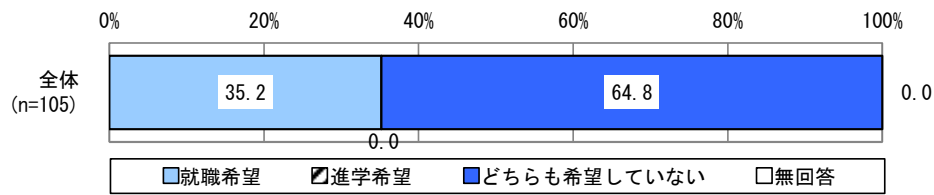
□性別



現在働いていない方

(4) 就職または進学希望の有無〔問20〕

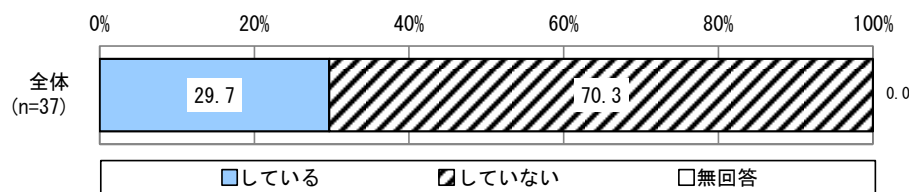
現在働いていない人の就職または進学の希望状況は、「就職希望」が35.2%で、「どちらも希望していない」が64.8%となっている。



(4) で「就職希望」を選んだ方

(5) 就職活動の状況〔問21〕

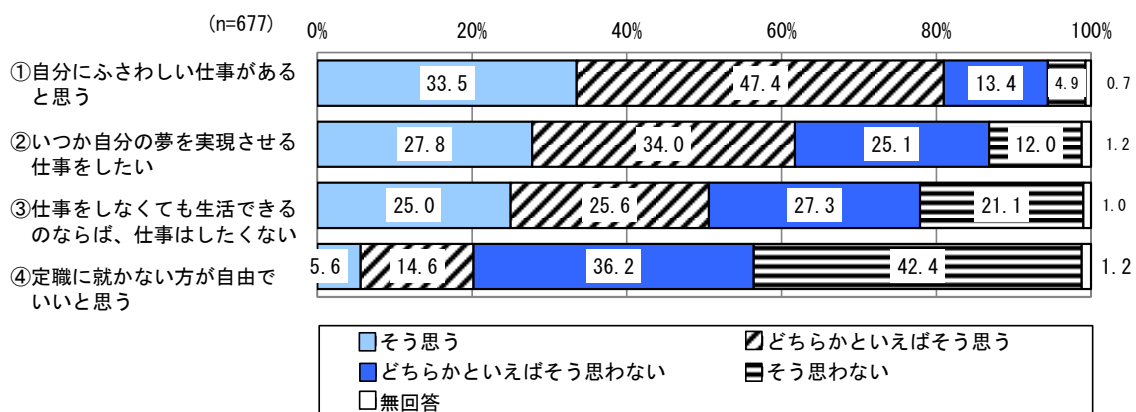
就職希望の人の就職活動の状況は、「している」が29.7%に対し、「していない」が70.3%となっている。



(6) 職業に関する意見に対する考え〔問22〕

『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計）の割合で見ると、「①自分にふさわしい仕事があると思う」は80.9%、「②いつか自分の夢を実現させる仕事をしたい」は61.8%で、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合の合計）の割合を大きく上回っている。

「③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」は、『そう思う』の割合は50.6%に対し『そう思わない』の割合は48.4%で意見が分かれている。「④定職に就かない方が自由でいいと思う」については、『そう思わない』の割合が78.6%で、『そう思う』の割合（20.2%）を大きく上回っている。

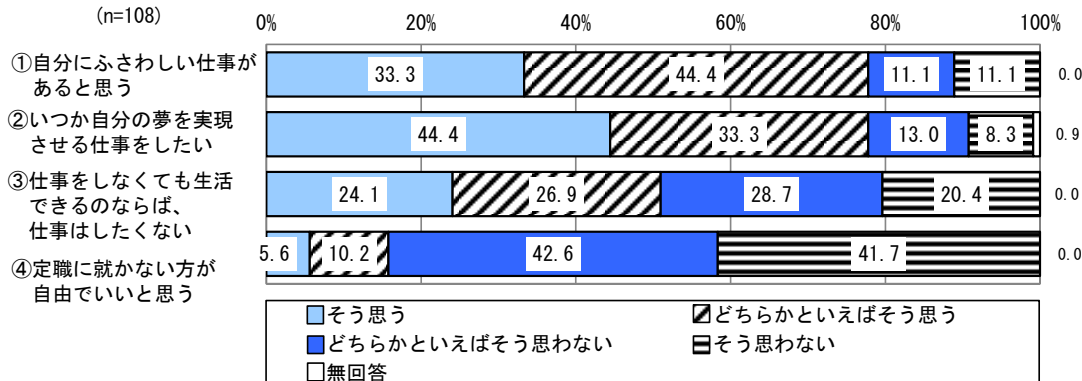


年齢別でみると、「①自分にふさわしい仕事があると思う」に対し『そう思う』割合がいずれの年代も8割前後を占めている。「②いつか自分の夢を実現させる仕事をしたい」に対し『そう思う』割合は、19～24歳は77.7%となっているが、25歳以上の年代では6割前後に低下し、『そう思わない』の割合が増加している。「③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」に対し『そう思う』割合は各年代とも5割前後となっているが、「④定職に就かない方が自由でいいと思う」に対しては『そう思わない』の割合が『そう思う』を大きく上回っている。

□ 年齢別

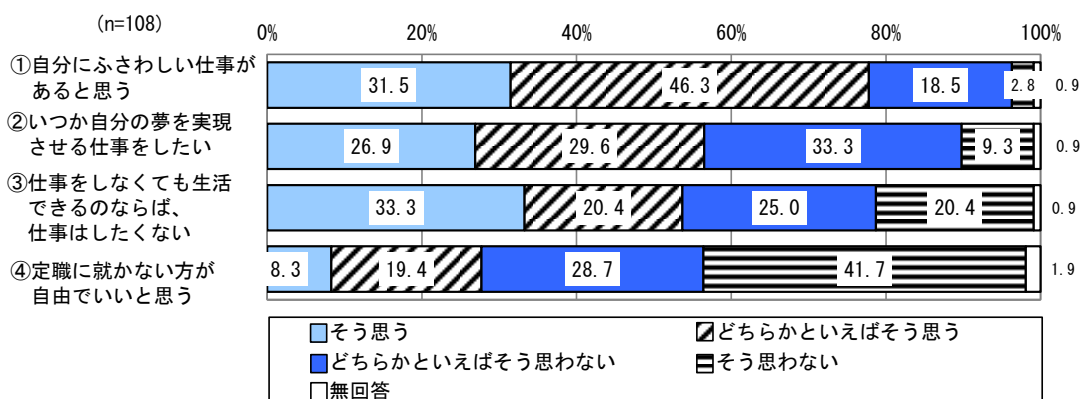
【19～24歳】

(n=108)



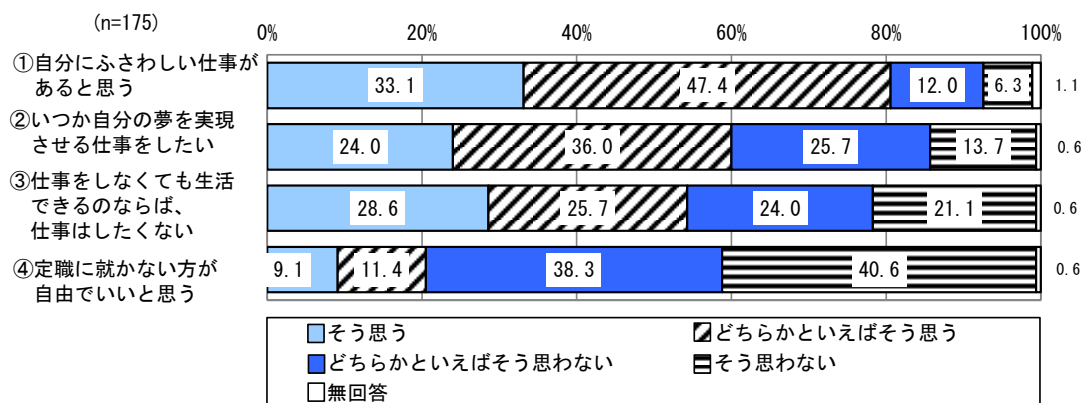
【25～29歳】

(n=108)



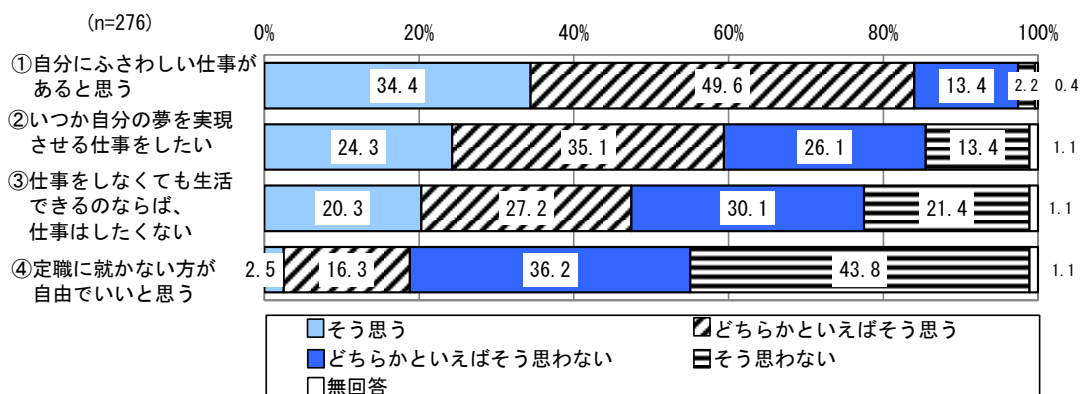
【30～34歳】

(n=175)



【35～39歳】

(n=276)



5 ふだんの過ごし方について

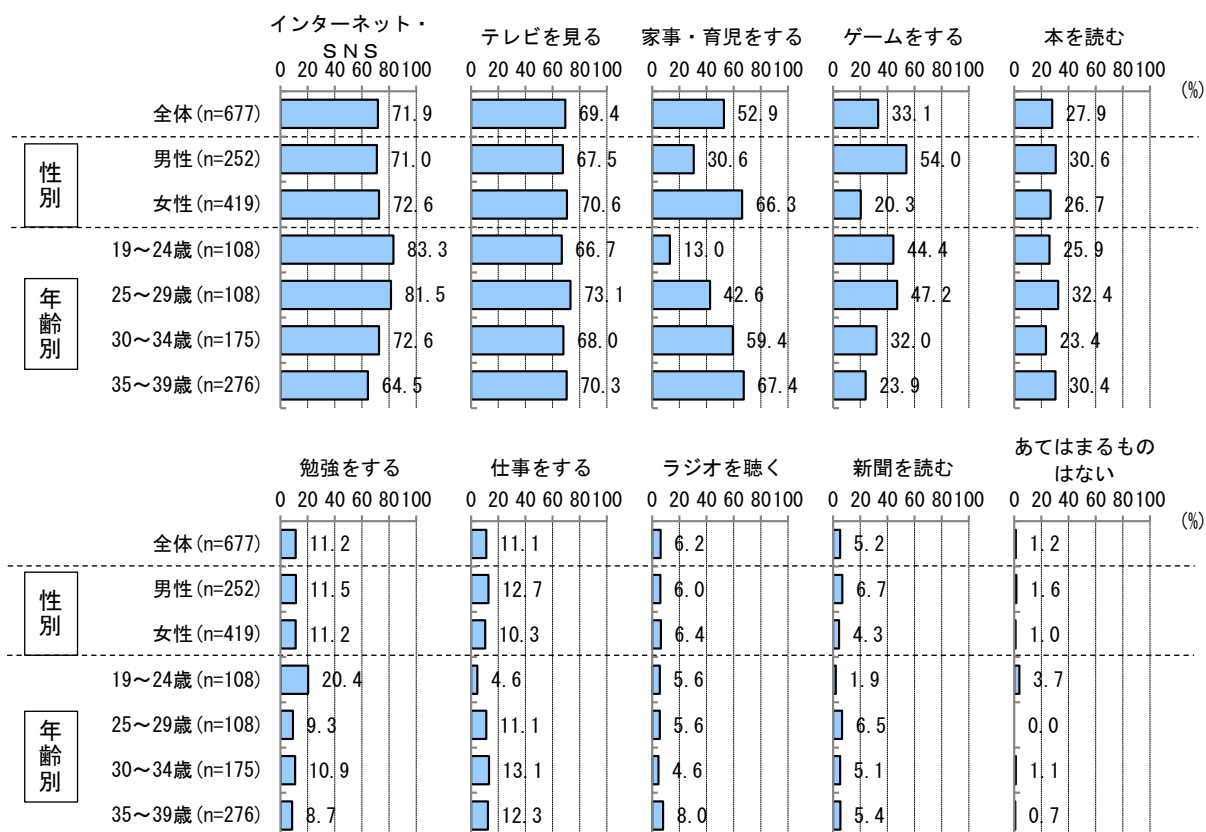
(1) 自宅でよくしていること〔問23〕

「インターネット・SNS」が71.9%で最も多く、次いで「テレビを見る」が69.4%となっている。以下、「家事・育児をする」(52.9%)、「ゲームをする」(33.1%)、「本を読む」(27.9%)となっている。

男女とも「インターネット・SNS」が最も多い。「家事・育児をする」は、男性(30.6%)に比べ女性(66.3%)のほうが35.7ポイント高く、逆に「ゲームをする」は、女性(20.3%)に比べ男性(54.0%)のほうが33.7ポイント高い。

年齢別では、「インターネット・SNS」は、19~34歳までの年代で最も多く、19~29歳では8割を占め、「ゲームをする」も、19~29歳までの各年代で高い。35~39歳の年代は、「インターネット・SNS」の割合は最も低く、「家事・育児をする」が67.4%で最も高い。

□性別、年齢別



(複数回答)

(3) インターネットの利用状況（目的）〔問25〕

インターネットの利用状況（目的）は、全体では、「情報検索をする」が75.8%で最も多く、次いで「ニュースや天気予報などをみる」が74.4%となっている。以下、「チャット（LINEなど）またはメッセージ」（66.0%）、「SNS（Facebook、Twitter、Instagramなど）をみる・書き込み・アップロード」（60.4%）、「ウェブサイト（HP、掲示板、ブログなど）をみる・書き込み・更新」（60.1%）が続く。

「チャット（LINEなど）またはメッセージ」や「SNS（Facebook、Twitter、Instagramなど）をみる・書き込み・アップロード」は女性の割合が高く、年齢では19～24歳で高くなっている。

□性別、年齢別

性別

年齢別

性別

年齢別

性別

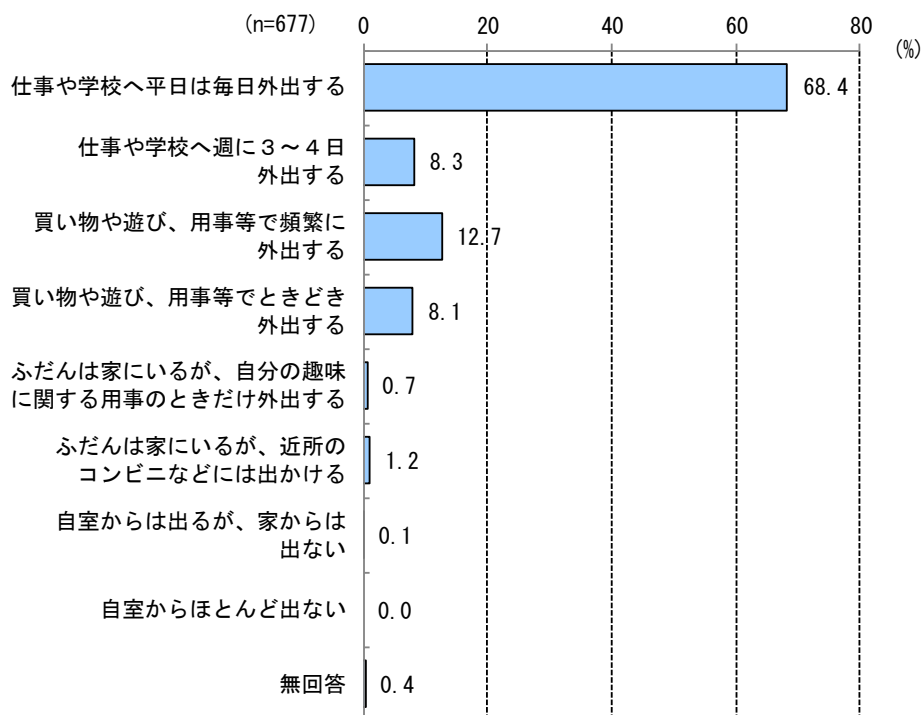
年齢別

（複数回答）

(4) ふだんの外出の頻度〔問26〕

全体では、「仕事や学校へ平日は毎日外出する」が68.4%で最も多く、次いで「買い物や遊び、用事等で頻繁に外出する」が12.7%、「仕事や学校へ週に3～4日外出する」が8.3%、「買い物や遊び、用事等でときどき外出する」が8.1%となっている。

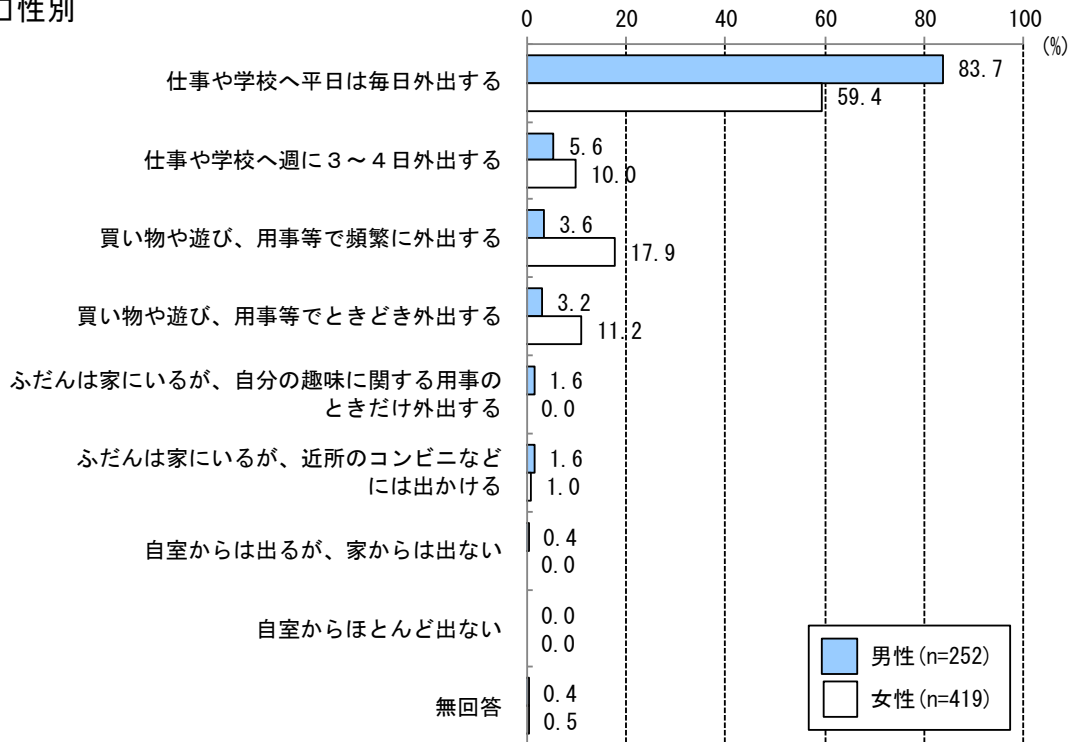
一方、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答し外部とのつながりが少ない傾向のある人は2.0%となっている。



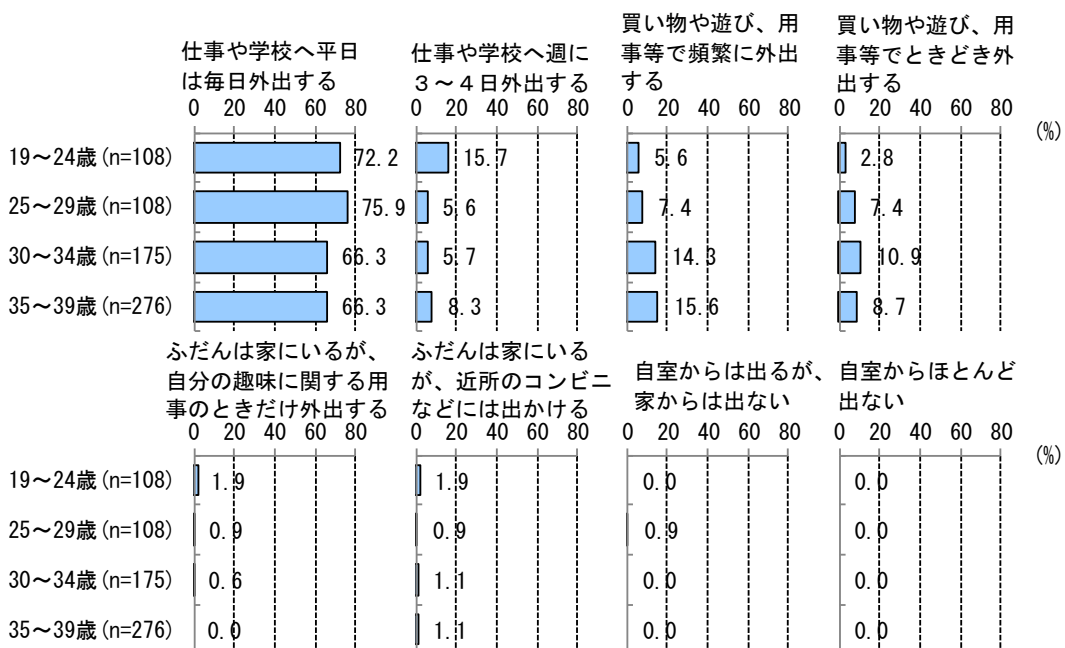
性別では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答し外部とのつながりが少ない傾向のある人は、男性3.6%、女性1.0%となっている。

年齢別では、外部とのつながりが少ない傾向のある人は、19～24歳が3.8%、25～29歳が2.7%、30～34歳が1.7%、35～39歳が1.1%となっている。

□性別



□年代別



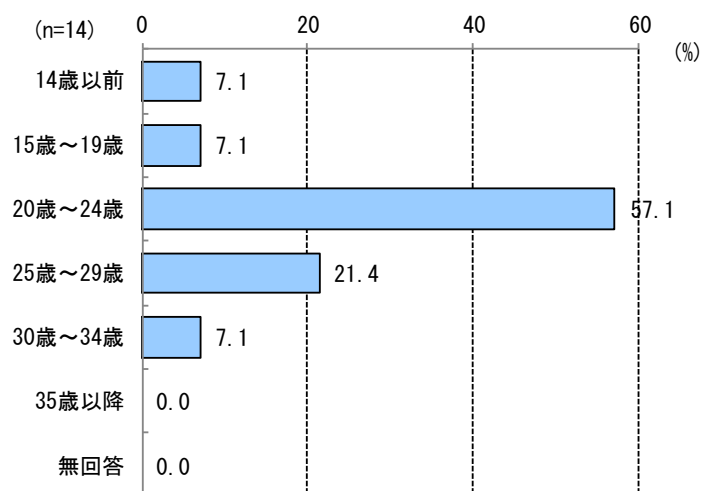
6 ひきこもりの状況について

5（4）で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを選んだ方

（1）ひきこもりの状態になった年齢〔問27〕

あまり出かけない、またはほとんど外出しない傾向のある人が現在の状態になった年齢は、「20歳～24歳」が57.1%（8人）で最も多く、次いで「25歳～29歳」が21.4%（3人）となっている。

□全体



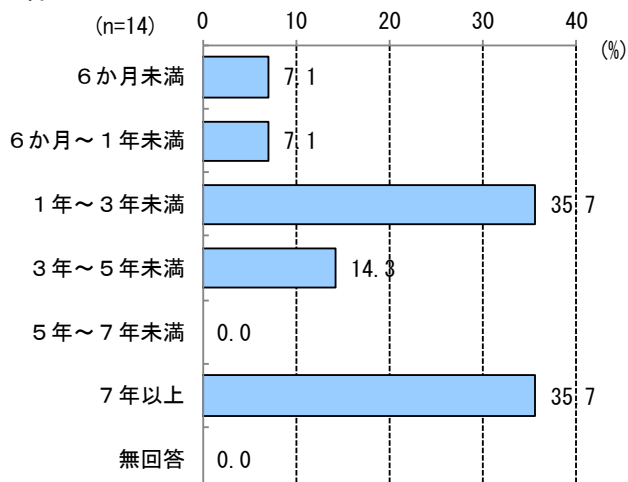
*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
14歳以前	1	10.0
15歳～19歳	-	-
20歳～24歳	7	70.0
25歳～29歳	1	10.0
30歳～34歳	1	10.0
35歳以降	-	-
計	10	100.0

（2）ひきこもりの状態になってからの期間〔問28〕

ひきこもりの状態になってからの期間は、「1年～3年未満」と「7年以上」が各35.7%（5人）、「3年～5年未満」が14.3%（2人）となっている。

□全体

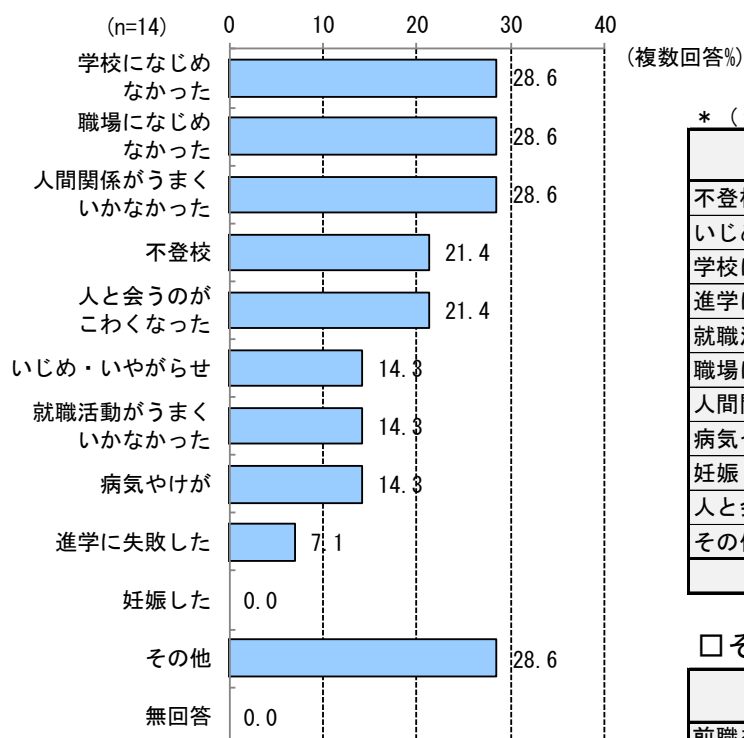


*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
6か月未満	-	-
6か月～1年未満	-	-
1年～3年未満	4	40.0
3年～5年未満	2	20.0
5年～7年未満	-	-
7年以上	4	40.0
計	10	100.0

(3) ひきこもり状態になったきっかけ〔問29〕

「学校になじめなかった」「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」各28.6%（4人）が多い。



* (うち) ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
不登校	2	20.0
いじめ・いやがらせ	1	10.0
学校になじめなかった	3	30.0
進学に失敗した	1	10.0
就職活動がうまくいかなかった	2	20.0
職場になじめなかった	3	30.0
人間関係がうまくいかなかった	3	30.0
病気やけが	-	-
妊娠した	-	-
人と会うのがこわくなった	2	20.0
その他	3	30.0
計 (回答者数)	10	100.0

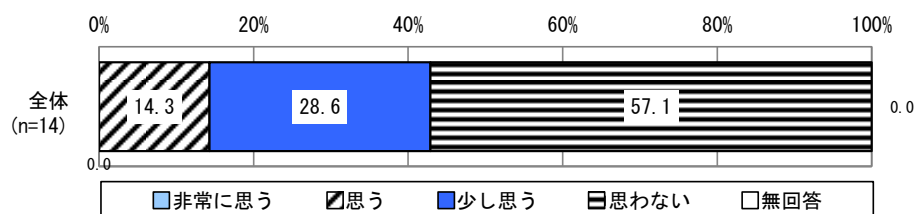
□ その他記述

	件数 (件)	割合 (%)
前職を辞めたから	1	33.3
なんとなく	1	33.3
よくわからない	1	33.3
計 (回答者数)	3	100.0

(4) ひきこもり状態についての相談

① ひきこもり状態についての相談意向〔問30〕

現在の状態について相談したいと思う割合（「非常にそう思う」「思う」「少しそう思う」の割合の合計）は42.9%に対し、相談したいと思わない割合は57.1%となっている。

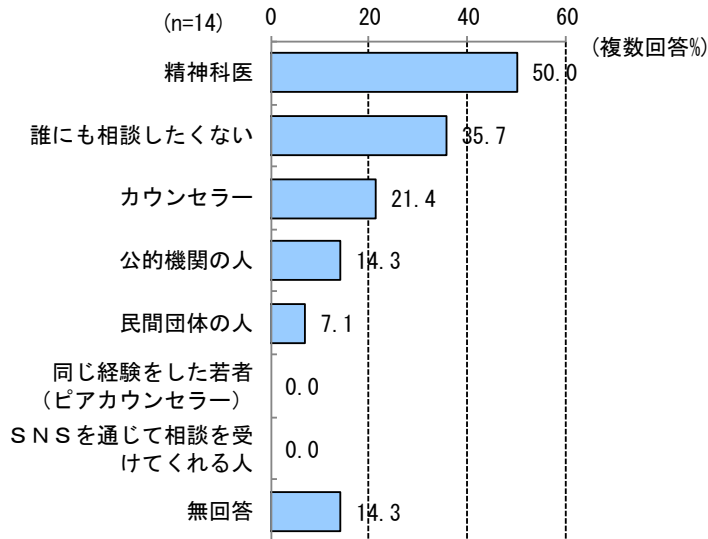


	n	非常に思う		思う		少し思う		思わない	
		該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)
(うち) ひきこもりリスクがある人	10	-	-	2	20.0	3	30.0	5	50.0

②ひきこもり状態について希望する相談先〔問31〕

現在の状態について相談したい相手は、「精神科医」が50.0%（7人）で最も多く、次いで「誰にも相談したくない」が35.7%（5人）、「カウンセラー」が21.4%（3人）となっている。

□全体



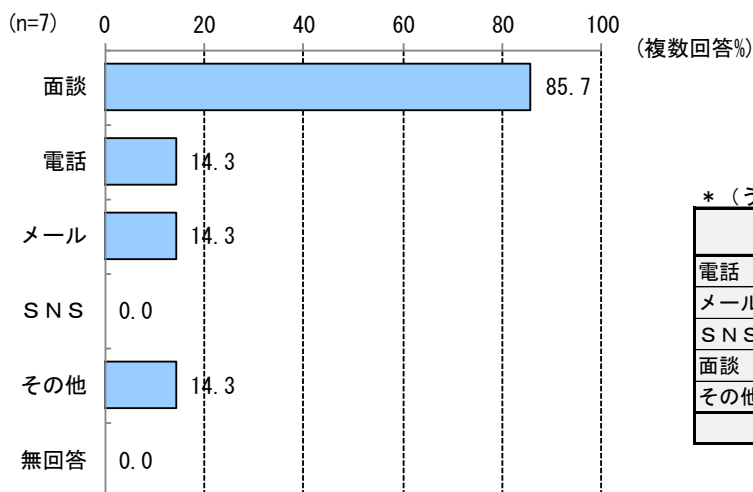
* (うち) ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
精神科医	5	50.0
カウンセラー	2	20.0
同じ経験をした若者(ピアカウンセラー)	-	-
公的機関の人	1	10.0
民間団体の人	1	10.0
SNSを通じて相談を受けてくれる人	-	-
誰にも相談したくない	3	30.0
計(回答者数)	10	100.0

②で「精神科医」「カウンセラー」「同じ経験をした若者(ピアカウンセラー)」「公的機関の人」「民間団体の人」「SNSを通じて相談を受けてくれる人」のいずれかを選んだ方

③ひきこもり状態について希望する相談方法〔問32〕

相談したい相手がいる人に、相談方法についてたずねると、「面談」が85.7%（6人）が多くなっている。



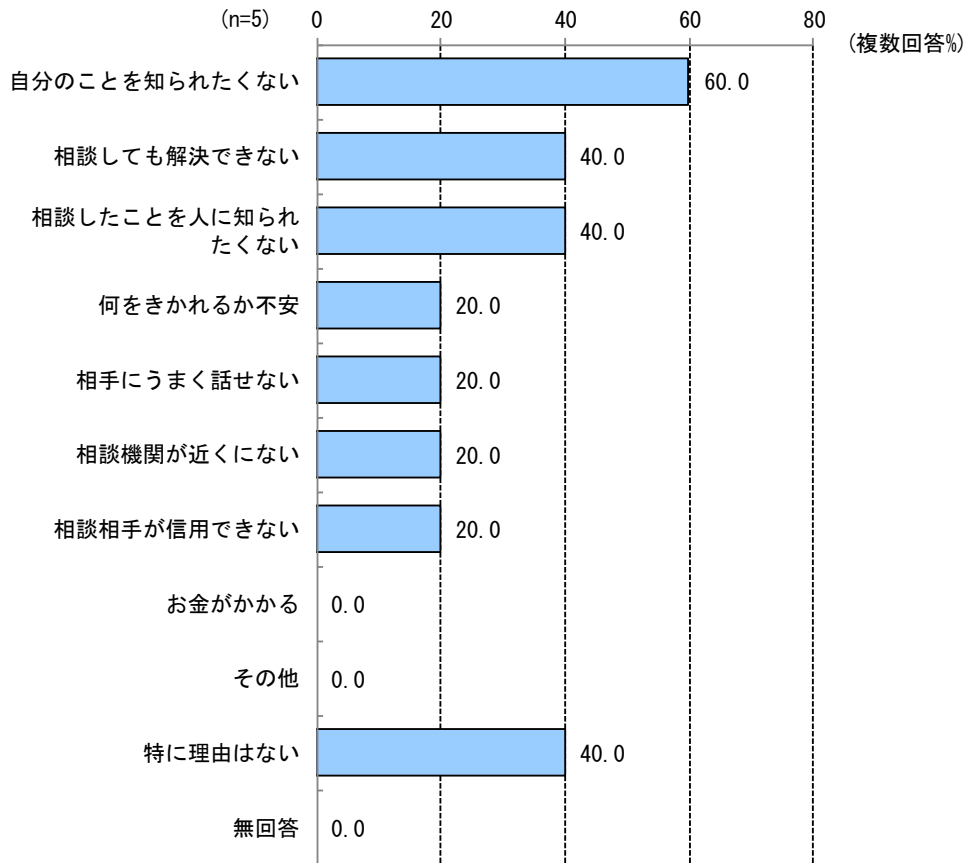
* (うち) ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
電話	1	20.0
メール	-	-
SNS	-	-
面談	5	100.0
その他	-	-
計(回答者数)	5	100.0

②で「誰にも相談したくない」を選んだ方

④相談したくない理由〔問33〕

誰にも相談したくないと回答した人に、その理由についてたずねると、「自分のことを知られたくない」が60.0%（3人）が最も多く、次いで「相談しても解決できない」と「相談したことを人に知られたくない」が40.0%（2人）となっている。また、「特に理由はない」も40.0%（2人）となっている。

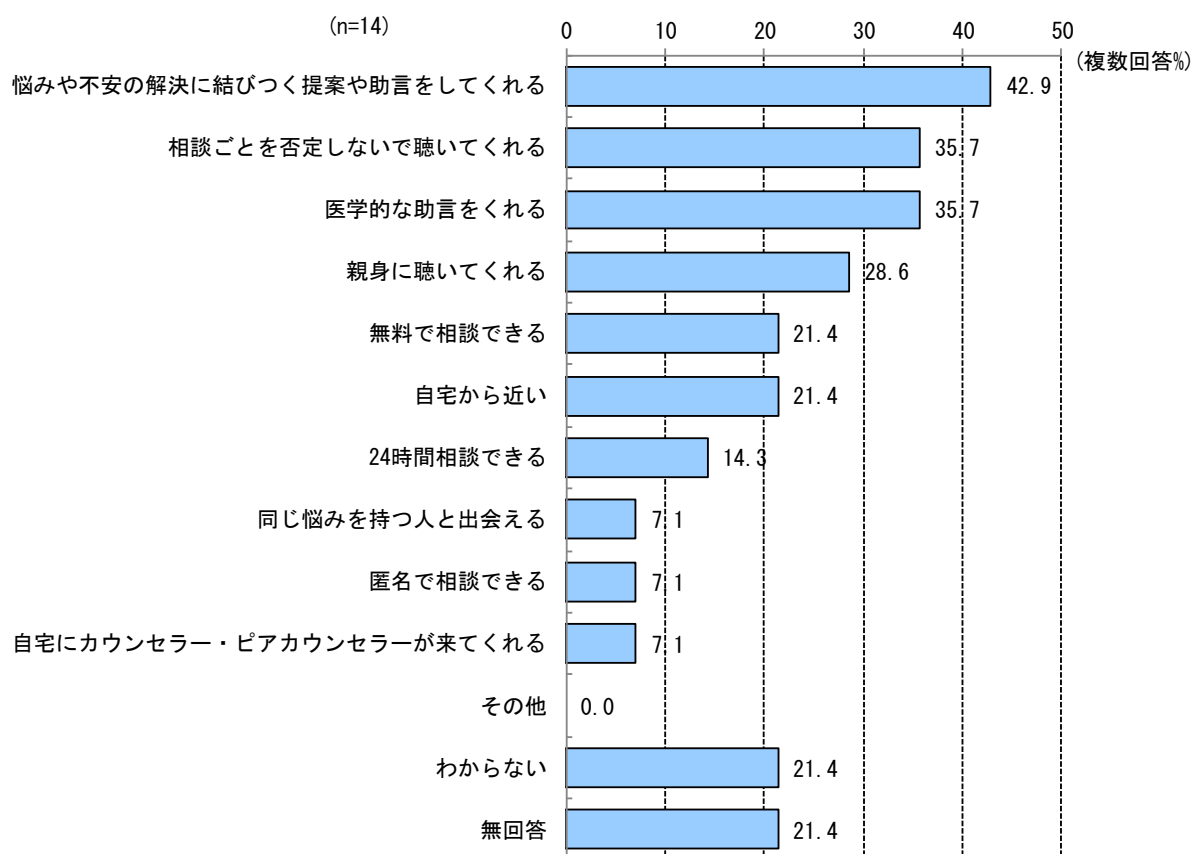


*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
自分のことを知られたくない	2	66.7
相談しても解決できない	2	66.7
何をきかれるか不安	-	-
相手にうまく話せない	1	33.3
相談したことを人に知られたくない	1	33.3
お金がかかる	-	-
相談機関が近くにない	1	33.3
相談相手が信用できない	-	-
その他	-	-
特に理由はない	1	33.3
計（回答者数）	3	100.0

⑤相談する場合に重視すること〔問34〕

相談する場合に重視することは、「悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる」が42.9%（6人）で最も多く、次いで「相談ごとを否定しないで聴いてくれる」と「医学的な助言をくれる」が各35.7%（5人）となっている。



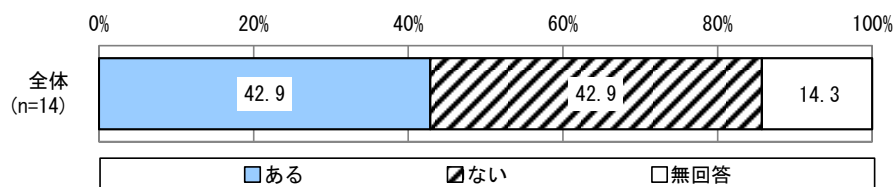
*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
親身に聴いてくれる	3	30.0
相談ごとを否定しないで聴いてくれる	4	40.0
医学的な助言をくれる	4	40.0
悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる	5	50.0
同じ悩みを持つ人と出会える	1	10.0
匿名で相談できる	1	10.0
無料で相談できる	2	20.0
24時間相談できる	2	20.0
自宅にカウンセラー・ピアカウンセラーが来てくれる	1	10.0
自宅から近い	2	20.0
その他	-	-
わからない	2	20.0
計（回答者数）	10	100.0

⑥現在の状態についての相談機関への相談経験

(ア) 相談経験の有無〔問36〕

現在の状態について相談機関に相談したことがある割合は42.9%（6人）、相談したことがない割合も42.9%（6人）である。



	n	ある		ない		無回答	
		該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)
(うち) ひきこもりリスクがある人	10	4	40.0	2	20.0	2	20.0

(ア) で「ある」を選んだ方

(イ) 相談したことがある機関等〔問37〕

現在の状態について相談したことがあると回答した人に、相談した機関についてたずねたところ、「市役所の相談窓口」と「病院・診療所」が各33.3%（2人）となっている。

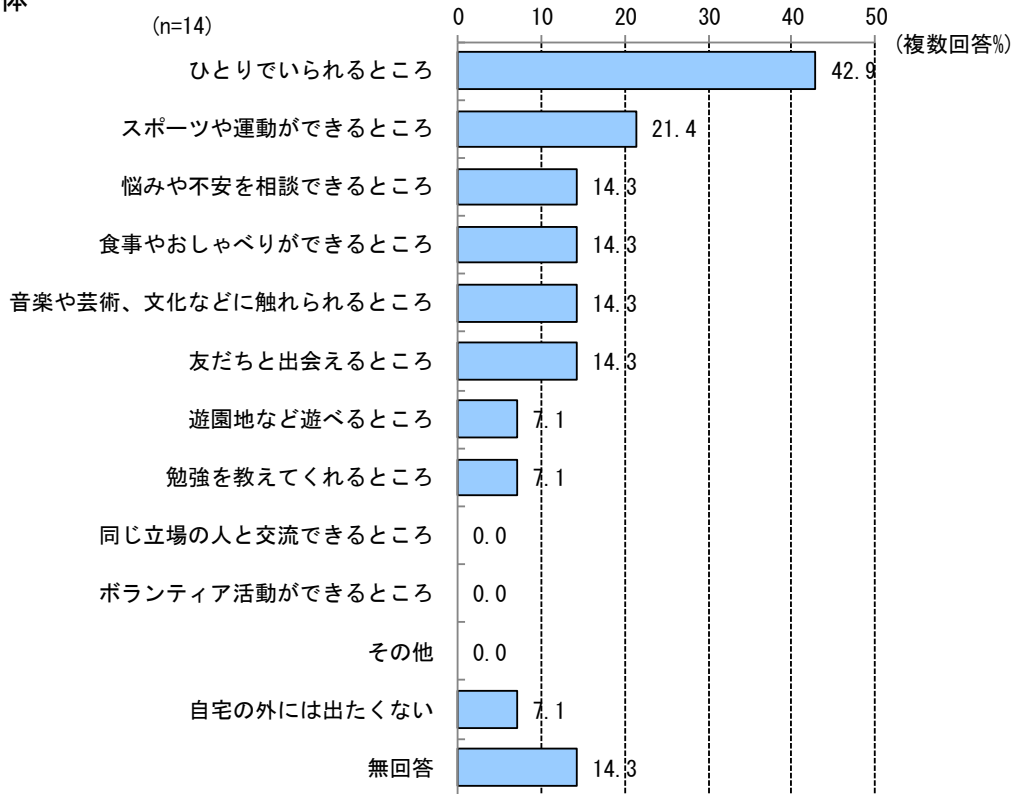
□全体

	全体		(うち)ひきこもりリスクがある人	
	該当数 (人)	割合 (%)	該当数 (人)	割合 (%)
市役所の相談窓口	2	33.3	1	25.0
病院・診療所	2	33.3	1	25.0
茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」	1	16.7	1	25.0
職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ	1	16.7	1	25.0
地域若者サポートステーション	1	16.7	1	25.0
その他の心理相談・カウンセリングなどをする民間機関	1	16.7	-	-
その他の施設・機関等	1	16.7	-	-
茨木市教育センター	-	-	-	-
茨木市子ども相談室	-	-	-	-
茨木市保健医療センター	-	-	-	-
大阪府吹田子ども家庭センター（児童相談所）	-	-	-	-
大阪府茨木保健所	-	-	-	-
大阪府精神保健福祉センター（こころの健康相談センター）	-	-	-	-
大阪府ひきこもり地域支援センター	-	-	-	-
発達障害者支援センター	-	-	-	-
フリースクール	-	-	-	-
所属していた学校	-	-	-	-
学校の保健室、大学の保健センター	-	-	-	-
会社の産業医	-	-	-	-
計（回答者数）	6	100.0	4	100.0

⑦自宅以外で過ごす場合に行きたいところ〔問35〕

「ひとりでいられるところ」が42.9%（6人）で最も多く、次いで「スポーツや運動ができるところ」が21.4%（3人）となっている。以下、「悩みや不安を相談できるところ」「食事やおしゃべりができるところ」「音楽や芸術、文化などに触れられるところ」「友だちと出会えるところ」が続いている。

□全体



*（うち）ひきこもりリスクがある人

	該当数 (人)	割合 (%)
ひとりでいられるところ	2	20.0
同じ立場の人と交流できる場所	-	-
悩みや不安を相談できる場所	2	20.0
遊園地など遊べる場所	1	10.0
勉強を教えてくれる場所	1	10.0
食事やおしゃべりができる場所	2	20.0
スポーツや運動ができる場所	3	30.0
音楽や芸術、文化などに触れられる場所	2	20.0
ボランティア活動ができる場所	-	-
友だちと出会える場所	2	20.0
その他	-	-
自宅の外には出たくない	1	10.0
計（回答者数）	10	100.0

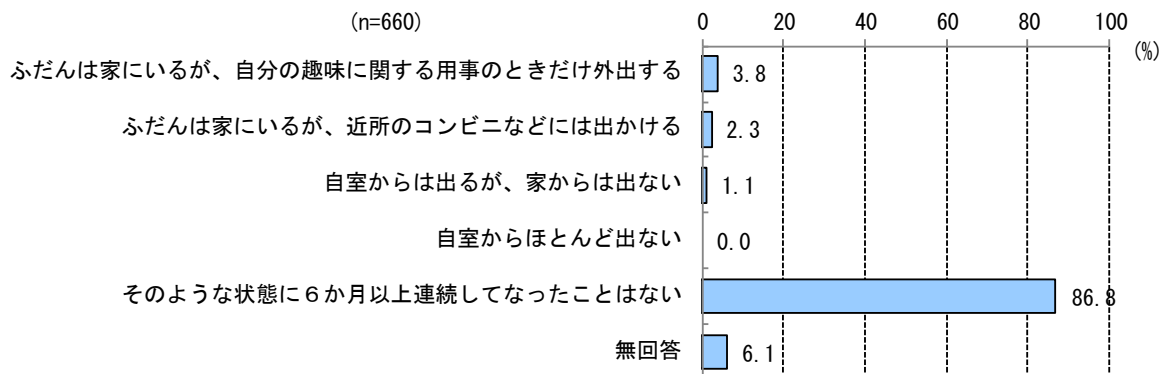
(5) 過去のひきこもり状態について

5(4)で「仕事や学校へ平日は毎日外出する」「仕事や学校へ週に3～4日外出する」「買い物や遊び、用事等で頻繁に外出する」「買い物や遊び、用事等でときどき外出する」のいずれかを選んだ方

① 6か月以上連続して外出しない（外出することが少ない）状態の有無〔問38〕

毎日外出したり、外出することが多い人の中で、過去に6か月以上連続して外出しない（外出することが少ない）状態があったかどうかをたずねたところ、「そのような状態に6か月以上連続してなったことはない」が86.8%で最も多い。

一方、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」(3.8%)、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」(2.3%)、「自室からは出るが、家からは出ない」(1.1%)のいずれかを回答し外部とのつながりが少ない傾向のあった人は7.2%となっている。

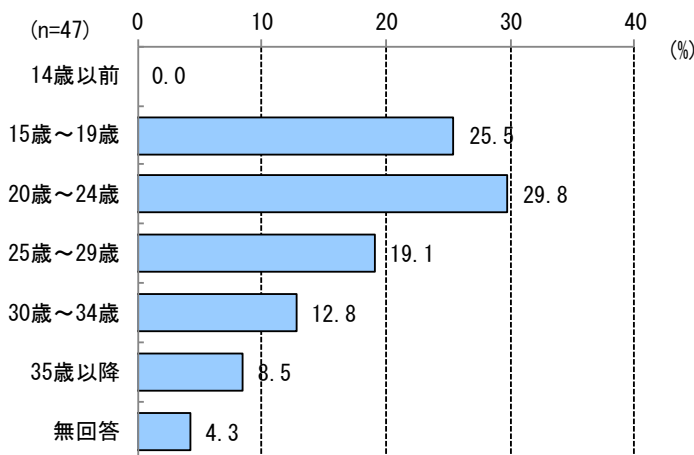


①で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを選んだ方

② ひきこもりの状態になった年齢〔問39〕

過去、ひきこもりの状態になった年齢は、「20歳～24歳」が29.8%で最も多く、次いで「15歳～19歳」が25.5%となっている。

□ 全体

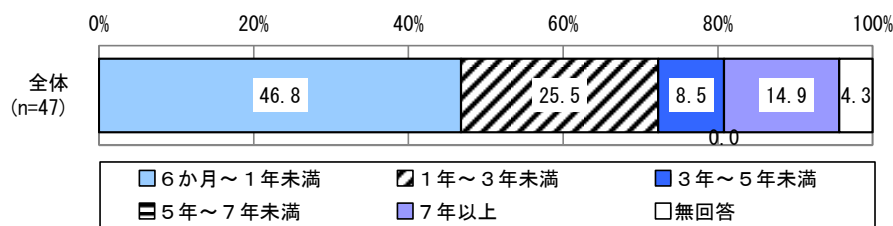


* (うち) ひきこもりリスクがあった人

	該当数 (人)	割合 (%)
14歳以前	-	-
15歳～19歳	12	33.3
20歳～24歳	12	33.3
25歳～29歳	3	8.3
30歳～34歳	4	11.1
35歳以降	3	8.3
無回答	2	5.6
計	36	100.0

③ひきこもりの状態だった期間〔問40〕

ひきこもりの状態だった期間は、「6か月～1年未満」が46.8%で最も多く、次いで「1年～3年未満」が25.5%となっている。



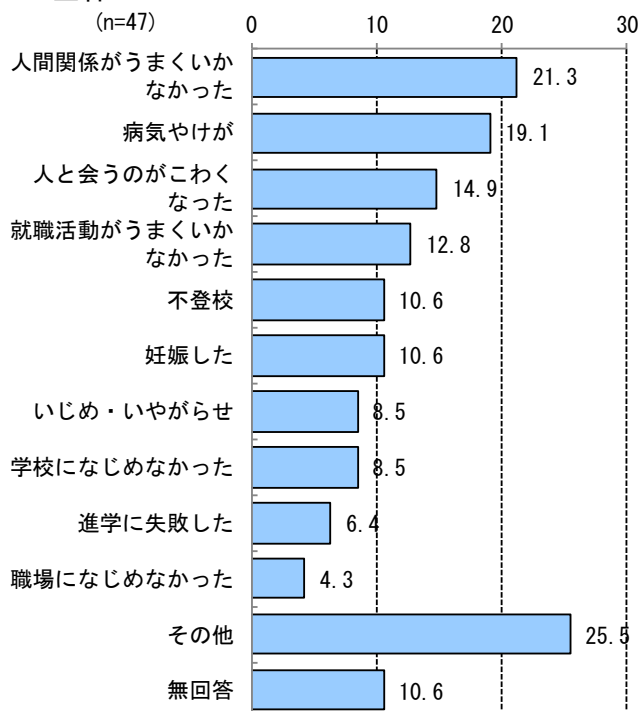
* (うち) ひきこもりリスクがあった人

	該当数 (人)	割合 (%)
6か月～1年未満	16	44.4
1年～3年未満	9	25.0
3年～5年未満	4	11.1
5年～7年未満	-	-
7年以上	5	13.9
無回答	2	5.6
計	36	100.0

④ひきこもり状態になったきっかけ〔問41〕

過去、ひきこもり状態になったきっかけは、「人間関係がうまくいかなかった」(21.3%)が最も多い。これに次いで「病気やけが」(19.1%)で、以下、「人と会うのがこわくなった」(14.9%)、「就職活動がうまくいかなかった」(12.8%)、「不登校」(10.6%)、「妊娠した」(10.6%)が続いている。

□全体



* (うち) ひきこもりリスクがあった人

	該当数 (人)	割合 (%)
不登校	5	13.9
いじめ・いやがらせ	4	11.1
学校になじめなかった	4	11.1
進学に失敗した	3	8.3
就職活動がうまくいかなかった	6	16.7
職場になじめなかった	1	2.8
人間関係がうまくいかなかった	8	22.2
病気やけが	1	2.8
妊娠した	-	-
人と会うのがこわくなった	7	19.4
その他	11	30.6
計 (回答者数)	36	100.0

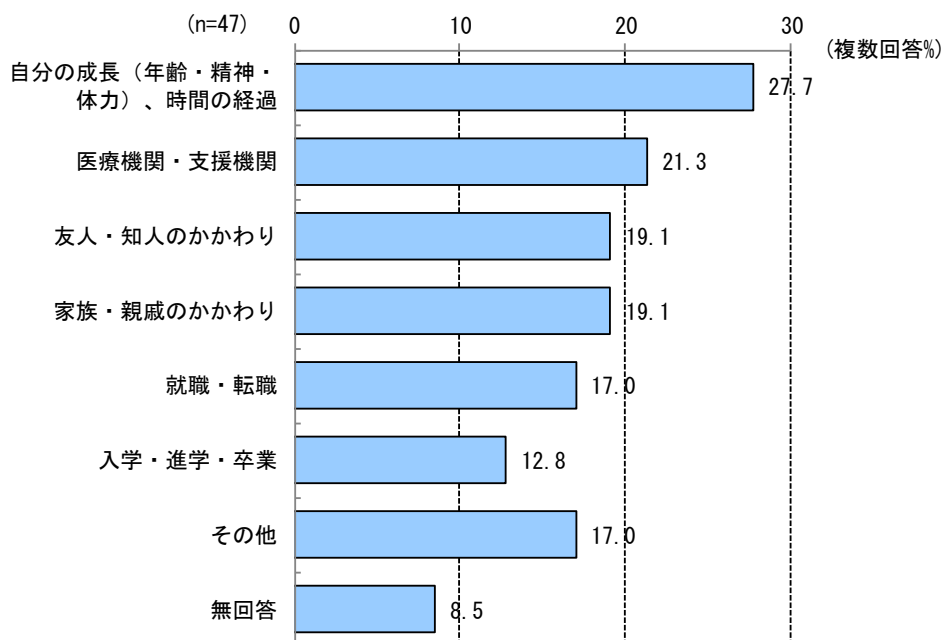
□その他記述

	件数 (件)	割合 (%)
家から出るのが面倒	2	20.0
友人がいない、会う機会が減った	2	20.0
仕事をしたくない、仕事を辞めた	2	20.0
その他	6	60.0
計 (回答者数)	10	100.0

⑤ひきこもり状態から外出できるようになったきっかけ〔問42〕

ひきこもり状態を脱して外出できるようになったきっかけは、「自分の成長（年齢・精神・体力）、時間の経過」（27.7%）が最も多い。これに次いで「医療機関・支援機関」（21.3%）で、以下、「友人・知人のかかわり」（19.1%）、「家族・親戚のかかわり」（19.1%）、「就職・転職」（17.0%）が続く。

□全体



*（うち）ひきこもりリスクがあった人

	該当数 (人)	割合 (%)
入学・進学・卒業	6	16.7
就職・転職	7	19.4
友人・知人のかかわり	7	19.4
家族・親戚のかかわり	6	16.7
医療機関・支援機関	7	19.4
自分の成長（年齢・精神・体力）、 時間の経過	11	30.6
その他	4	11.1
計（回答者数）	36	100.0

□その他記述

	件数 (件)	割合 (%)
機会がないだけ、悩みはない	2	28.6
子どもが成長し、保育施設に預けられた	2	28.6
病気が治った	1	14.3
仕事復帰した	1	14.3
趣味を見つけた	1	14.3
計（回答者数）	7	100.0

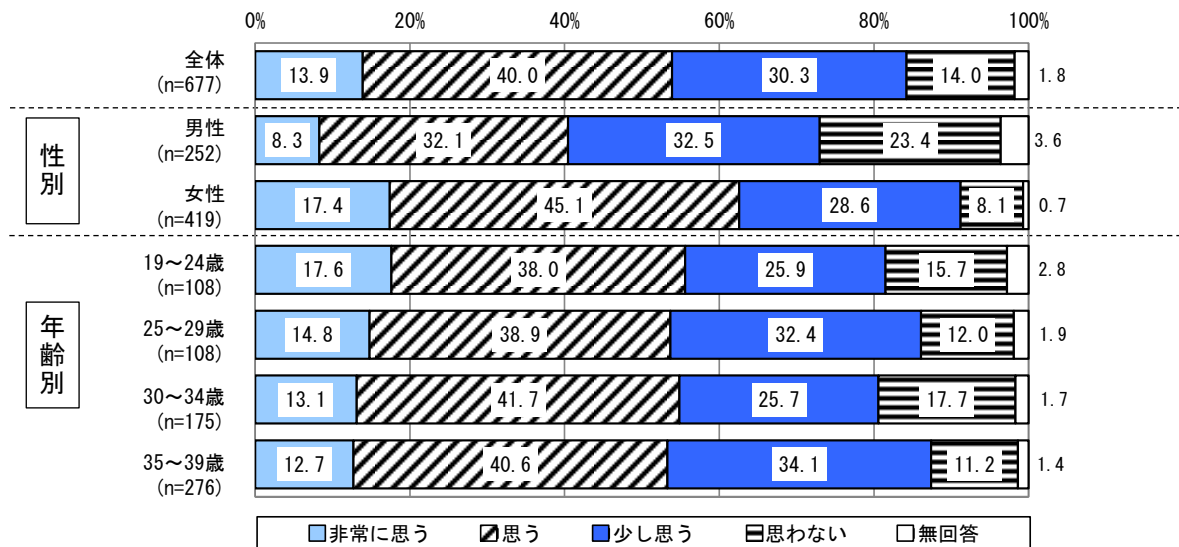
7 悩みや相談先について

(1) 悩み事の相談意向〔問43〕

ふだん悩み事について『相談したいと思う』割合（「非常に思う」「思う」「少し思う」の割合の合計）は84.2%に対し、相談したいと「思わない」割合は14.0%となっている。

性別では、『相談したいと思う』割合は、男性が72.9%に対し女性は91.1%で、特に女性の「非常に思う」割合が高く相談意向が強い。

年齢別では、「非常に思う」割合は、19～24歳で高くなっている。『相談したいと思う』割合は、各年代とも8割を占めている。



(2) 悩み事の相談先〔問44〕

ふだんの悩み事の相談先は、「友人・知人」が56.3%で最も多く、次いで「親」が48.0%となっている。以下、「配偶者」(41.2%)、「職場の同僚・上司」(25.8%)、「きょうだい」(18.0%)、「恋人」(10.2%)となっている。

性別では、男女とも「友人・知人」が相談相手として最も多い。これに次いで男女とも「親」「配偶者」となっている。

年齢別では、19～24歳は「友人・知人」が、25～29歳は「親」が最も多くなっている。

また、25～29歳は「友人・知人」も「親」と同じくらい多い。30～34歳も「友人・知人」が最も多く、35～39歳は「配偶者」が58.0%で最も多い。

(複数回答%)

	n	親		きょうだい		親族		配偶者		恋人		友人・知人		学校の先生		職場の同僚・上司		科医 カウンセラー・精神		都道府県、市町村などの専門機関の人		知り合い インターネット上の		知らない人 インターネット上の		その他の人		誰にも相談しない		無回答		
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
全体	677	325	48.0	122	18.0	41	6.1	279	41.2	69	10.2	381	56.3	10	1.5	175	25.8	21	3.1	7	1.0	9	1.3	8	1.2	9	1.3	68	10.0	9	1.3	
性別	男性	252	96	38.1	30	11.9	21	8.3	80	31.7	21	8.3	104	41.3	3	1.2	75	29.8	9	3.6	1	0.4	5	2.0	3	1.2	3	1.2	38	15.1	7	2.8
	女性	419	225	53.7	91	21.7	20	4.8	197	47.0	47	11.2	277	66.1	7	1.7	100	23.9	12	2.9	6	1.4	4	1.0	5	1.2	6	1.4	29	6.9	2	0.5
年齢別	19～24歳	108	53	49.1	15	13.9	6	5.6	4	3.7	19	17.6	64	59.3	9	8.3	9	8.3	5	4.6	1	0.9	3	2.8	2	1.9	1	0.9	15	13.9	1	0.9
	25～29歳	108	72	66.7	26	24.1	6	5.6	30	27.8	27	25.0	66	61.1	-	-	31	28.7	4	3.7	1	0.9	2	1.9	1	0.9	-	-	9	8.3	2	1.9
	30～34歳	175	77	44.0	32	18.3	9	5.1	78	44.6	10	5.7	95	54.3	-	-	45	25.7	3	1.7	2	1.1	2	1.1	-	-	2	1.1	23	13.1	3	1.7
	35～39歳	276	118	42.8	48	17.4	20	7.2	160	58.0	12	4.3	153	55.4	1	0.4	89	32.2	9	3.3	3	1.1	2	0.7	5	1.8	6	2.2	20	7.2	3	1.1

(3) 子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関の認知状況〔問45〕

(ア) 認知状況

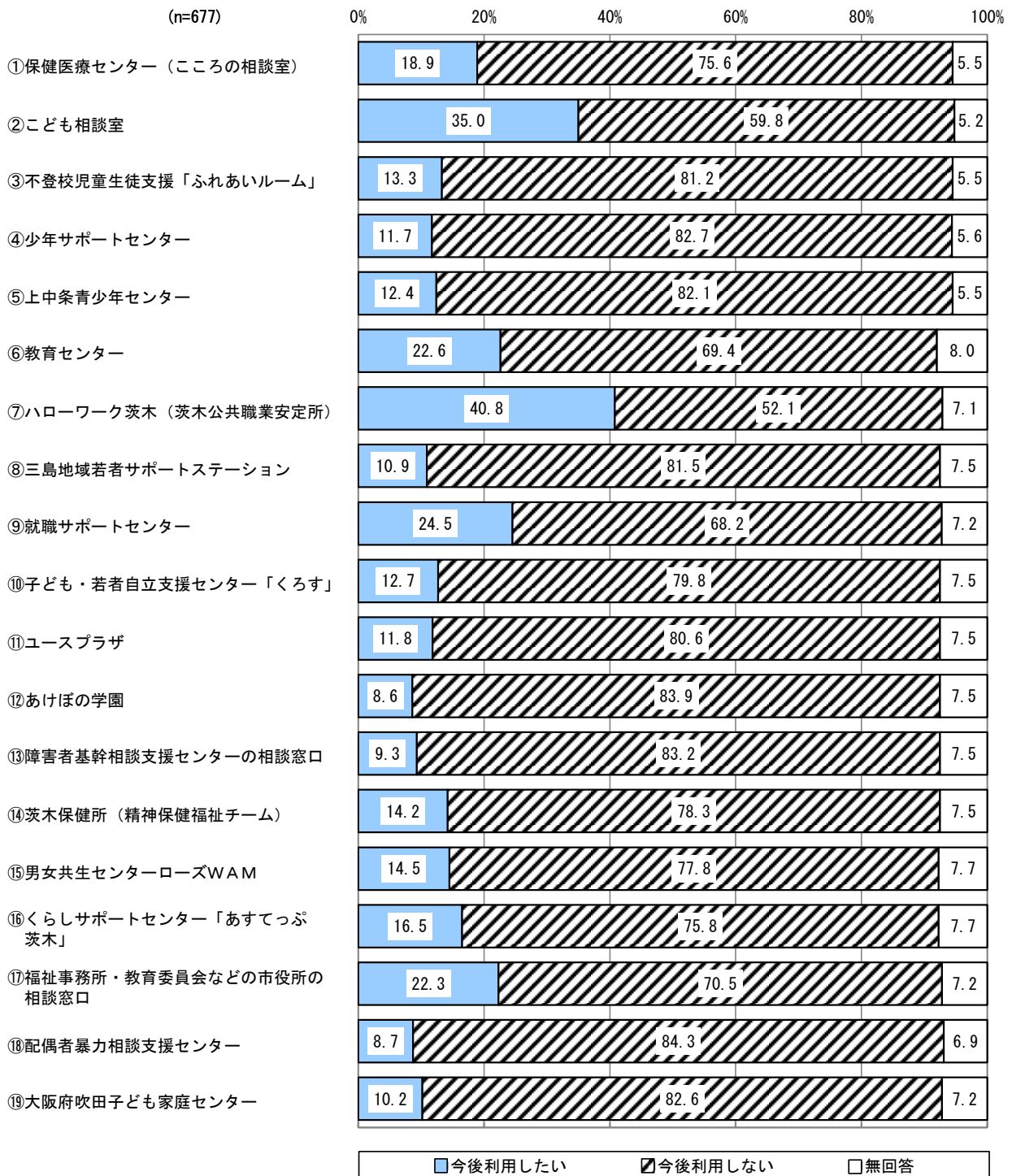
子ども・若者を対象とした相談窓口や相談機関について、「知っている」割合が最も高いのは「⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」の83.3%で、次いで「②こども相談室」の48.7%、「⑮男女共生センターローズWAM」の48.3%となっている。

(イ) 利用経験

利用したことがある割合は、「⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」が33.4%で最も高く、次いで「⑮男女共生センターローズWAM」（6.8%）、「福祉事務所・教育委員会などの市役所の相談窓口」（6.6%）となっている。

(ウ) 利用意向

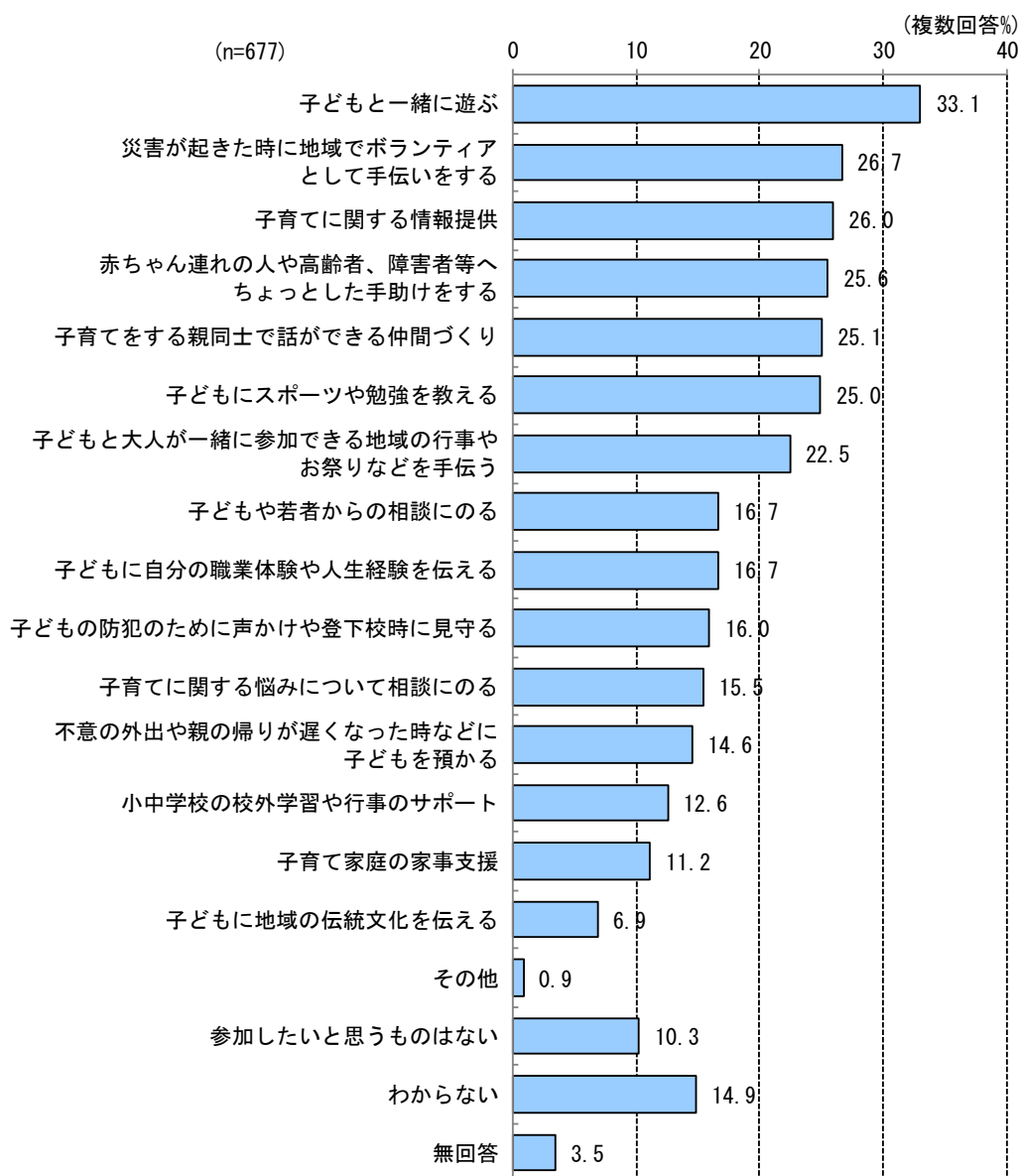
利用意向率は、「⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」が40.8%で最も高く、次いで「②こども相談室」の35.0%、「⑨就職サポートセンター」の24.5%となっている。



8 地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動

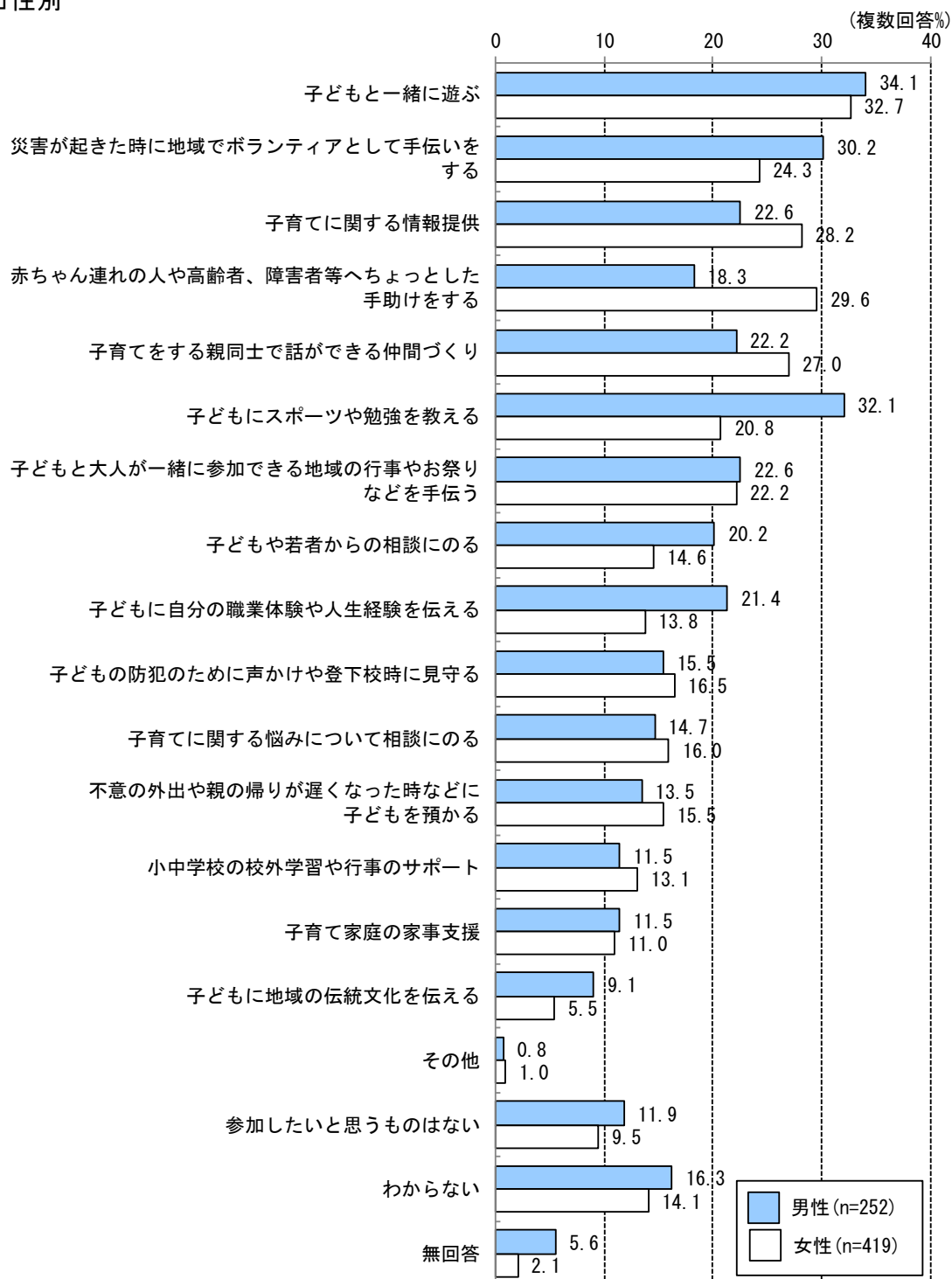
(1) 地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動〔問46〕

「子どもと一緒に遊ぶ」が33.1%で最も多い。これに次いで「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(26.7%)で、以下、「子育てに関する情報提供」(26.0%)、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者等へちょっとした手助けをする」(25.6%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(25.1%)、「子どもにスポーツや勉強を教える」(25.0%)が続いている。



性別では、男女とも「子どもと一緒に遊ぶ」(男性34.1%、女性32.7%)が最も多い。これに次いで、男性では「子どもにスポーツや勉強を教える」(32.1%)で、以下、「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(30.2%)、「子育てに関する情報提供」「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを手伝う」(各22.6%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(22.2%)、「子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える」(21.4%)が続いている。一方、女性では、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者等へちょっとした手助けをする」(29.6%)が2番目に多く、以下、「子育てに関する情報提供」(28.2%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(27.0%)、「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(24.3%)が続く。

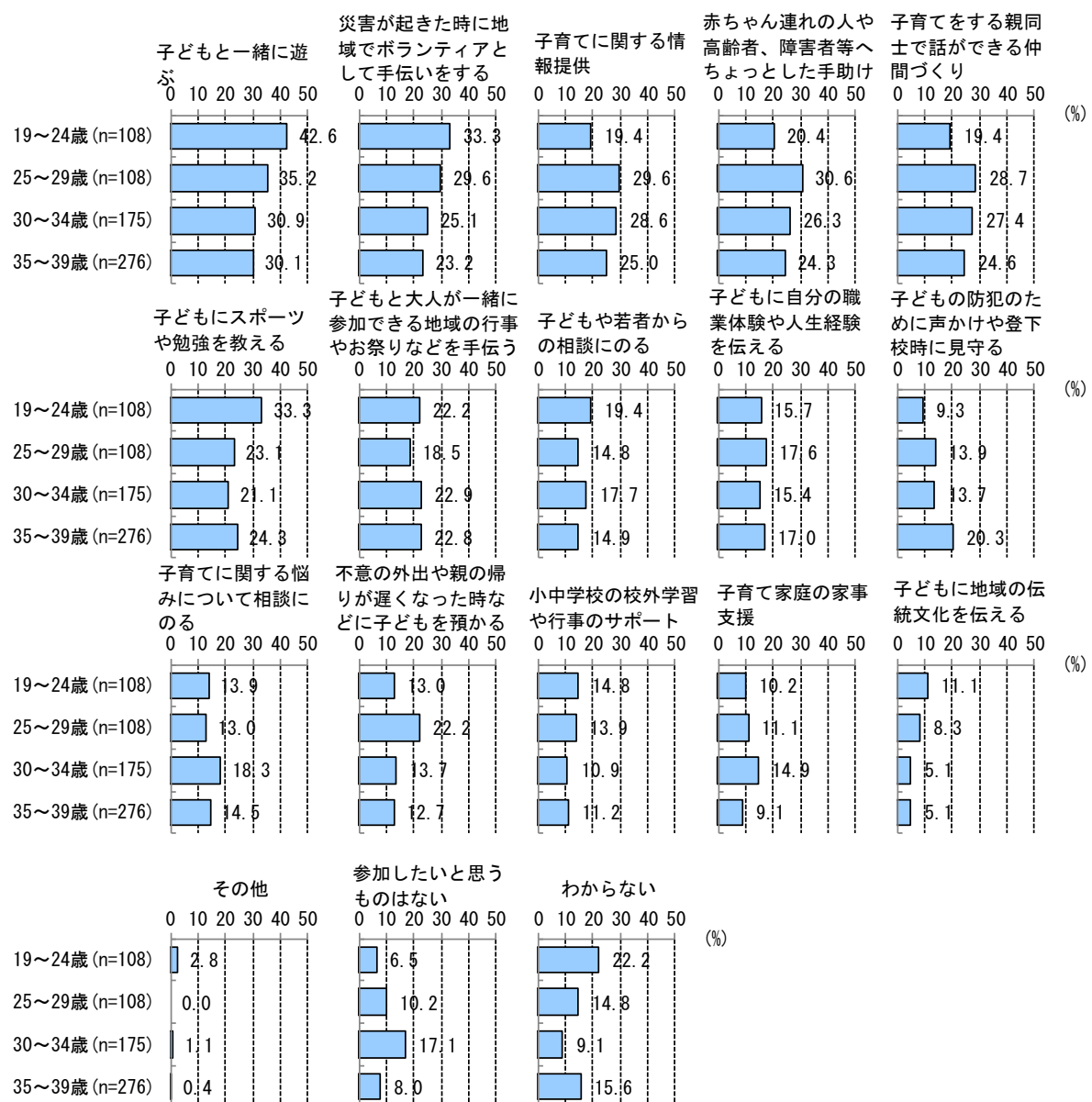
□性別



年齢別では、いずれの年代も「子どもと一緒に遊ぶ」が最も多く、19～24歳の割合が42.6%で最も高くなっている。また、「子どもにスポーツや勉強を教える」も19～24歳の割合が高くなっている。一方、「子育てに関する情報提供」や「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者等へちょっとした手助けをする」「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」「子どもの防犯のために声かけや登下校時に見守る」については、19～24歳の各割合は低くなっている。

「子育てに関する情報提供」「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者等へちょっとした手助けをする」「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」は25～29歳と30～34歳の各年代の割合が高い。35～39歳は「子どもの防犯のために声かけや登下校時に見守る」の割合が高くなっている。

□年齢別



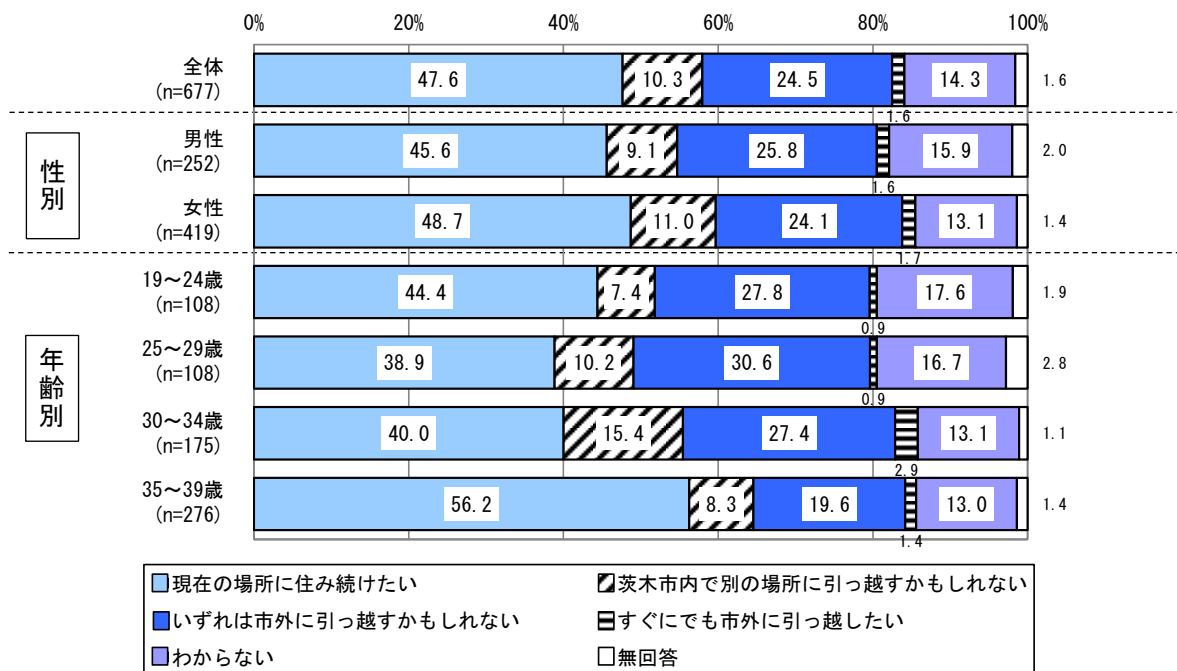
9 茨木市の暮らしについて

(1) 現在の住まいの場所での居留意向〔問47〕

「現在の場所に住み続けたい」が47.6%で最も多く、次いで「いずれは市外に引っ越すかもしれない」(24.5%)となっている。

性別では、「現在の場所に住み続けたい」は男性45.6%、女性48.7%となっているが、男女とも4人に1人は市外への転居を考えている。「いずれは市外に引っ越すかもしれない」と「すぐにでも市外に引っ越したい」の合計

年齢別では、「現在の場所に住み続けたい」割合は35～39歳が56.2%と半数を超えているのに対し、19～34歳までの各年代は4割前後となっていて、「いずれは市外に引っ越すかもしれない」の割合が35～39歳より高くなっている。



(1)で「現在の場所に住み続けたい」を選んだ方

(2) 茨木市内に住み続けたい理由〔問48〕

茨木市に住み続けたい理由で最も多いものは、全体では「住み慣れているから」(60.9%)である。これに次いで「交通の便が良いから」が59.3%で、以下、「住環境が良いから」(54.0%)、「親や親戚がいるから」(40.7%)、「日常生活に必要な施設、ものが揃っていて良いから」(39.1%)が続く。

性別では、男性は「住み慣れているから」(67.8%)が、女性は「交通の便が良いから」(62.7%)が最も多い。これに次いで、男性は「住環境が良いから」(56.5%)、「交通の便が良いから」(53.9%)が、女性は「住み慣れているから」(56.9%)、「住環境が良いから」(53.4%)がそれぞれ多くなっている。

年齢別では、19～24歳は「住み慣れているから」(87.5%)が、25～29歳は「交通の便が良いから」(61.9%)、30～34歳は「住環境が良いから」と「住み慣れているから」(各57.1%)が多くなっている。35～39歳は「住環境が良いから」と「交通の便が良いから」(各58.7%)が多い。また、「子育て環境が良いから」は、35～39歳が36.1%で、「まちのイメージが良いから」は、19～24歳が33.3%で、それぞれ最も高くなっている。

□性別、年齢別

(複数回答%)

	n	自然環境が良いから		住環境が良いから		交通の便が良いから		子育て環境が良いから		教育環境が良いから		福祉環境が良い(高齢者・障害者福祉など)から		商売や仕事の都合が良いから		日常生活に必要な施設、ものが揃っていて良いから		住み慣れているから		まちのイメージが良いから		親や親戚がいるから		人間関係が良いから		今後まちが繁栄・発展すると思うから		その他		無回答		
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
全体	322	81	25.2	174	54.0	191	59.3	82	25.5	59	18.3	5	1.6	53	16.5	126	39.1	196	60.9	63	19.6	131	40.7	54	16.8	22	6.8	11	3.4	2	0.6	
性別	男性	115	34	29.6	65	56.5	62	53.9	22	19.1	19	16.5	2	1.7	25	21.7	38	33.0	78	67.8	30	26.1	39	33.9	22	19.1	11	9.6	4	3.5	1	0.9
	女性	204	47	23.0	109	53.4	128	62.7	60	29.4	39	19.1	3	1.5	28	13.7	88	43.1	116	56.9	33	16.2	92	45.1	32	15.7	11	5.4	7	3.4	1	0.5
年齢	19～24歳	48	13	27.1	20	41.7	35	72.9	3	6.3	10	20.8	3	6.3	2	4.2	20	41.7	42	87.5	16	33.3	27	56.3	10	20.8	4	8.3	2	4.2	1	2.1
	25～29歳	42	13	31.0	23	54.8	26	61.9	5	11.9	4	9.5	-	-	8	19.0	18	42.9	23	54.8	7	16.7	15	35.7	5	11.9	2	4.8	3	7.1	-	-
	30～34歳	70	16	22.9	40	57.1	35	50.0	15	21.4	7	10.0	1	1.4	12	17.1	25	35.7	40	57.1	8	11.4	27	38.6	6	8.6	2	2.9	-	-	1	1.4
	35～39歳	155	39	25.2	91	58.7	91	58.7	56	36.1	36	23.2	1	0.6	31	20.0	62	40.0	86	55.5	31	20.0	60	38.7	32	20.6	14	9.0	6	3.9	-	-

(1)で「茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない」「いずれは市外に引っ越すかもしれない」「すぐでも市外に引っ越したい」のいずれかを選んだ方

(3) 茨木市内の別の場所や市外に転居・転出したい理由〔問49〕

全体では、「住宅が狭いから」が21.9%で最も多い。これに次いで「住宅の価格・家賃が高いから」と「親や親戚と暮らすから・近くに住むから」(各16.2%)で、以下、「商売や仕事の都合が良くないから」(13.8%)、「交通の便が良くないから」(12.6%)、「子育て環境が良くないから」(8.9%)が続いている。

性別では、男性は「親や親戚と暮らすから・近くに住むから」が20.7%で最も多く、女性は「住宅が狭いから」が26.6%で最も多い。

年齢別では、19～24歳は、「交通の便が良くないから」「商売や仕事の都合が良くないから」「親や親戚と暮らすから・近くに住むから」が各12.8%で多い。25～29歳は「商売や仕事の都合が良くないから」(24.4%)が、30～34歳と35～39歳は「住宅が狭いから」がそれぞれ多くなっている。

□性別、年代別

(複数回答%)

	n	自然環境が良くないから		住宅が狭いから		住宅の価格・家賃が高いから		交通の便が良くないから		子育て環境が良くないから		教育環境が良くないから		福祉環境が良くない(高齢者・障害者福祉など)から		商売や仕事の都合が良くないから		日常生活に必要な施設、ものが不足しており不便だから		まちに馴染めないから		まのイメージが良くないから		親や親戚と暮らすから・近くに住むから		人間関係が良くないから		今後もまちが繁栄・発展すると思えないから		その他		無回答		
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%			
全体	247	11	4.5	54	21.9	40	16.2	31	12.6	22	8.9	9	3.6	6	2.4	34	13.8	15	6.1	7	2.8	6	2.4	40	16.2	3	1.2	7	2.8	85	34.4	8	3.2	
性別	男性	92	2	2.2	13	14.1	13	14.1	12	13.0	3	3.3	2	2.2	-	-	17	18.5	5	5.4	1	1.1	2	2.2	19	20.7	-	-	1	1.1	31	33.7	4	4.3
	女性	154	9	5.8	41	26.6	27	17.5	19	12.3	19	12.3	7	4.5	6	3.9	17	11.0	10	6.5	6	3.9	4	2.6	21	13.6	3	1.9	6	3.9	53	34.4	4	2.6
年齢	19～24歳	39	1	2.6	3	7.7	4	10.3	5	12.8	1	2.6	1	2.6	-	-	5	12.8	2	5.1	2	5.1	1	2.6	5	12.8	-	-	1	2.6	17	43.6	2	5.1
	25～29歳	45	2	4.4	9	20.0	9	20.0	6	13.3	5	11.1	2	4.4	1	2.2	11	24.4	4	8.9	-	-	2	4.4	6	13.3	1	2.2	1	2.2	18	40.0	-	-
	30～34歳	80	3	3.8	21	26.3	17	21.3	12	15.0	9	11.3	5	6.3	2	2.5	11	13.8	4	5.0	3	3.8	3	3.8	15	18.8	1	1.3	2	2.5	21	26.3	2	2.5
	35～39歳	81	4	4.9	21	25.9	10	12.3	8	9.9	7	8.6	1	1.2	3	3.7	7	8.6	5	6.2	2	2.5	-	-	14	17.3	1	1.2	3	3.7	28	34.6	4	4.9

10 自由意見

281件（41.5%） 延389件

意見の要点等

(ア) 生活環境について (75件)

渋滞の解消を考えてほしい。縦の道は混むし、車線の少ない道も多く一通で抜け道もない。車がないと不便なのに車だと行きにくい場所が多い。茨木に住んでいるが、茨木で遊んだり休日を過ごす事はない。高槻か箕面、吹田へ行く。それで良いと思っているのか知りたい。住み良い街に特化するなら納得する。

JR茨木駅の周りに住み良い物件もないし、朝は渋滞でバスは遅延する、休日は産業道路が渋滞するなど不便さを感じる。私は北部に住んでおり、不便さ（通勤時）を感じているので市外へ転居する予定である。渋滞などの改善のためにもJR周りの再開発などに取り組んでほしいと思います。（朝の渋滞の改善、マンション等の開発など）

自転車を利用する人がとても多いので、自転車の交通ルールの講習やパンフレットがあると、乗る人が注意深くなると思います。また、歩道と車道の境に段差がある所や、歩道のレンガ敷きのような所がへこんでいて、自転車やベビーカーがひっかかり危ないので、定期的に検査や補修をしてほしい。整備された道路をもっと使いやすくしていただけたら嬉しいです。

路上喫煙者が多く、ゴミのポイ捨てをよく見かけるので、喫煙コーナーの設置を増やしてみたいかどうでしょうか？（駅前や、人通りの多い近辺に）

ドッグランがほしいです。普段行くには、遠いので茨木市にあってほしいです。ドックカフェも箕面市のように増やしてほしい。

道幅を広くしたり、歩道を作ってほしい。また、信号無視をするお年寄りが多い。高齢の方が増えると思うので子どもばかりでなく、大人の指導もお願いしたい。

新名神が出来、物流センターが乱立していく中で、道路も作られ、近年、自然がどんどん失われ、北部の生き物たちが生きられる場所が減少の一途をたどっている。税収入も減って大変かもしれないが、別の方法で税収入の確保を行っていくことも考えてほしい。子育て支援などは近隣都市に比べて割と充実していると思う。続けていってほしい。

茨木市は、利便性もありながら、大変静かで、落ちついた大人の街だと思います。この良さを決して失なわないでほしいと思います。

マンションの乱立を制限していただきたい。

JR茨木駅西口の再開発。JR茨木駅～阪急茨木市駅間に賑わいがほしい。

(イ) 子育て支援について (62件)

幼稚園の保育料の無償化！（1号）無償化が無理ならば料金を一律にしてほしい。高槻は無償化されているのに高い保育料を払っている。2号に入れたくても入れない。高い保育料のわりに先生たちの対応も良いとは思えない。（私立ではなく、公立です。）

未来ある子どもたちのための政策を考え実行してほしい。

子育て家族への支援（子どもの医療費、保育料、子ども手当など）は本当に助かります。これからも続けていただきたい。

他市に比べ、茨木は子育て面でまだまだ手当が少ないとよく耳にします。

子育て施設の充実。補助金の拡充。

学童教室を6年生までみてほしい。（春・夏・冬休みなど長い休みの期間、1日中1人で家に居とかすのは心配である。）・子ども手当の金額を上げてほしい。もう少し経済的余裕があれば子どもをもう一人産みたいが…なかなか現在の状況では難しい。

市の助成の子育てルームが数多くあるのは良いが、質が場所によって違うと感じる時があります。保育者、保育スタッフの養成にも力を入れてもらえるとうれしいです。

共働き世帯への子育て支援（預け先、医療費、学費等の金銭支援）

土日祝が仕事の人のための子育て支援。

	子育て世代が住みやすいまちにしてほしい。フルタイムで共働きで毎日余裕はない。給与が増えても保育料や学童の負担額が上がり、何のために仕事・家事・育児をしているのかわからない。自分自身の自由な時間をつくれるよう短時間の預かりなど選択肢を増やしてほしい。
	箕面、高槻は週3日4時間でも学童保育入れる。小学校6年まで学童保育に入れるようにしてほしい。
(ウ) 市政・社会について (40件)	
	不妊治療に対する助成、悩み相談室。
	ゴミの分別が細かくないのがあるがたい。続けてほしい。
	市政全般の効率化(手続き全般のWeb・ペーパーレス化)
	同居している弟に障害があり、母も高齢となり、今後の生活が心配です。障害福祉、老人福祉に力を入れてほしい。
	今だにホームレスの方を見かけ、また何年も路上生活を続けておられるようなので、何とか社会復帰して生活できるような手助け、施設が増えれば良いと思う。
	税金を減らしてほしい。生活保護見直してほしい。一生懸命働いている人より遊べているように感じる。
	市の収入を増やす取り組み。これ以上税収を減らさない取り組み。
	ベーシックインカムをいち早く取り入れてほしい。
	外国人向けの相談・支援をしてほしい。
(エ) 学校・教育について (38件)	
	中学校の完全給食化。働きながらの毎日のお弁当作りはとても大変です。お弁当と給食の選択ではなく完全給食制にしてほしい。
	P T Aにギャランティを発生させてほしい。活動の理念は素晴らしいが、事実上、強制加入の上に無償なのはいかがかと思えます。トイレ掃除をP T Aにさせるのは疑問しかありません。
	奨学金返済の援助制度の継続
	小学校の教室の人数を減らしてほしい。40人を超えていて、先生も大変そう。
(オ) 医療について (36件)	
	市民病院があればよいと思う。
	インフルエンザの予防接種、ムンプスの予防接種を公費にしてほしい。
	入院施設のある病院を茨木市を増やしてほしい。なぜ市民病院がないのか。高校まで医療費控除。
	救急病院を茨木市につくってほしい。
	夜間・休日診療所を増やしてほしい。
(カ) 保育所・幼稚園等について (31件)	
	待機児童ゼロの街にしてほしい。子どもを預ける環境が確実に整っていることがわからないと、婚活をする気にもなれない。
	保育所を増やしてほしいです。
	保育所に入れたい。昨年から申込みをしていますがまだ入れずシングルマザーですが、思うように働けない期間も長かった。仕方がなく、上の子は保育所をあきらめ、幼稚園に入れましたが、働く上で不便な事も多いです。保育所に入れさえしていれば…と思うことは山ほどあります。
	保育園の空情報を公表してほしい。
	公立幼稚園3年保育の拡充
	子どもの一時預り利用したくても人数がすぐいっぱいになって利用できない。定員を増してほしい。

(キ) 地域のイベント・活動・交流について (30件)	
	音楽などの文化は大切にしてほしい。文化のない所に教養のある人間は育たないと思う。今は音楽フェスなど多彩なイベントなどで街を盛り上げてくれていて、とてもうれしい。中学・高校などとの交流も兼ねて、市吹とのイベントも増やして地域密着したい。(子ども(未就学～小学生)にもっと音楽文化を広めてほしい)
	イベント等は若者も参加しやすく盛り上がっていると思う。
	市内のイルミネーションを活発にしていきたいです。また、茨木市出身の著名人を招待するイベント等があればとても盛り上がると思います!
	小学校での夏祭りは続けてほしいです。
	茨木市に住み、とてもいい町です。学校での地区運動会も、みんな協力して、一つのスポーツに夢中になって競争して、仲よさがでてとても良かったです。
	茨木市の夏のイベント(花火大会や茨木フェスティバル、夏祭り)などはどんな理由があってもできるだけ開催していただきたい。茨木がさみしい街に感じるから。
	未就学児が参加できる行事を増やしてほしい。
	高齢化がすごい進んでいると思うので、栄養教室などロコモ、要介護予防になるようなイベント行事があれば良いと思います。もし現在、活動しているのであれば周知方法を変更するのも良いかと思います。
	アート関係のワークショップ。大人でも子どもでも、感性はいつでも養えると思うし、物事に対してのものの見方や感じ方が変わると思うから。イバラボ。参加させて頂き楽しかった。空いている農地をみんなで耕し無農薬もしくは低農薬の茨木産を広げる。サーカス団によるワークショップ。フランスのお友達が楽しいと続けているので、もし茨木に常駐のサーカス団が出来たら楽しいだろうと思う。
(ク) 情報提供について (15件)	
	いろいろなツールを使ってイベントなどを積極的に情報発信してほしいです。SNSを始めて、茨木市でたくさんイベントがあることを知りました。
	既存の取り組みがわかりません。駅など目につきやすい所にポスターで紹介する等、普段の生活の中で目につくようにしてほしいです。
	特色のあるグルメをもっと紹介すればいいのではと思います。
	働く女性に仕事と育児を両立するための支援や情報がほしい。例えば、24H預けられる夜間保育所の設立や家事代行の情報の提供など。
	茨木市で受けられるサービスを情報誌だけでなく若者向けにスマホなどにも発信してほしい。どんなサービスがあるのかそもそも知らないから。
	茨木市内や近隣の祭やイベント情報を事前にホームページ等にアップしてほしいです。また、大学の学祭なども含めて、一般参加できるものの情報がまとまっていると嬉しいです。
	公園などの施設、病院の情報や保育園、幼稚園の特色がわかるアプリやツール。
(ケ) 公共施設について (14件)	
	コンサートホールの建設(複数あれば良いと思います。)
	彩都は茨木市内から遠く、市役所などが遠くて不便です。小さくてもいいので図書館分室のような市役所があれば便利。
	子ども健康センターの場所が不便で行きにくい。もっと市の中心に設置してほしい。
	まちが古いかからか、少し生活が窮屈に感じます。図書館も利用してみたのですが、図書館への交通の便が悪く、一度も行けていません。茨木市内で気軽にどこか出かけようと思えるところがないのが現実ではないでしょうか。市役所や選挙投票会場も大変行きにくいです。アクセスの良い市の施設が増えてくれると、とても魅力的に思います。
	図書館などで、勉強できるスペースがほしい。

(コ) 交通機関について (14 件)	
	モノレールの本数を増やしてほしい。
	真砂や南沢宜のバス停から阪急南茨木行きのバスを作してほしい！！阪急茨木行きしかないのが不思議です。最寄りの駅が南茨木なので！！ぜひお願い致します。
	市バスがあるとありがたい。高槻市にあると知って少し駅から遠くても便利だと思ったので。(通勤・通学・買い物)無理と思うが阪急とJRの駅が近ければ良いな。又その周辺の道路、街活性化願います。人、物が動く街へ。(梅田に行かなくても買物、外食が出来るといい。)
	茨木市は住み続けたいまちですが、バスの本数の少なさが不便だと感じる場所です。電車は快速が止まり便利ですが、駅から帰宅するときにバスの本数が少なく、時間がかかるので、もう少し増便していただくと通勤時間が短縮でき、嬉しいです。
(サ) 地域の遊び場について (13 件)	
	子どもが遊べる場所(特に屋外)があればいい。あまり外で元気に遊ぶ子どもの姿を見ないので…。
	スポーツや習い事を1つの施設内でできる所が近くにほしいです。兄弟がそれぞれ違う習い事をできるように。
	子どもたちが野球やサッカーなど、ボールを使って遊べたりする場所を多くつくっていただければいいと思います。
	駐車場のある公園を増やす←無料
	茨木にはテニスコートがあり、仲間と楽しく利用させていただいています。一番中央コートが集まりやすく、頻繁に利用させていただいているので、これからは是非残していただきたいと思います。
(シ) 防犯について (10 件)	
	近所でタイヤのパンク被害や泥棒被害が相次いでいるので、防犯カメラの設置を希望します。特に子どもの通う通学路や人通りの少ない道などに。また、街灯がなく真っ暗になる道もあるので、街灯を増やすなど対策してほしいです。(R171から井口台に入るまでの道など)
	山間部への街灯をもう少し増やしてほしい。
	大住町の治安が悪すぎる。以前事件が何件もあったのにパトロールがないので不安。変な人が多いので安心して住めない。1日も早く引っ越したい。
	彩都に交番を設置してほしい。
	茨木市のことは好きです。おまわりさんがよくパトロールしてくれているので安心して暮らしています。
(ス) 防災について (4 件)	
	古い建物(空家)が多く、災害が起きた時に誰も対応することができないので、小さい子どもがいる私達にとっては、とても迷惑です。何か市として対応できることはできないのでしょうか。
	今年は自然災害が多く発生しました。私の自宅は損壊などの被害はありませんでしたが、地震から半年経った現在でもまだまだ被害を受けている住宅が多くあります。もう少しスピーディーに復旧をしてほしいのと、近い将来起こるであろう大地震や勢力の強い台風などの自然災害に強い街づくりをしてほしいと思います。
(セ) その他 (7 件)	
	現状維持
	質問が多すぎます。

Ⅲ. 調査結果からみえてきた今後の課題

1 多様な相談窓口の周知

ふだん悩んだり困ったりしていることは、19～24歳は「お金のこと」「性格のこと」が多く、次いで「勉強や進学のこと」となっている。それ以上の年代では、「お金のこと」が最も多く、これに次いで「自分自身の健康のこと」が、30歳代では「親のこと」の割合が高くなっている。また、悩み事について相談したいと思う割合は84.2%で、ふだんの相談先は、「友人・知人」(56.3%)や「親」(48.0%)が多くなっている。

こうした悩みや困りごとに対応するため、本市には様々な相談窓口や相談機関が設置されている。調査結果では、認知率が高い相談窓口は「ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」(83.3%)や「こども相談室」(48.7%)、「男女共生センターローズWAM」(48.3%)であるが、その他の相談窓口、相談機関の周知は必ずしも十分でない。相談ニーズに応じて適切な窓口につながるよう、相談機関の内容などについてわかりやすく周知することが必要である。

2 専門的な相談機能の充実

調査結果では、現在「ひきこもりリスクがある人」は、回答者全体では1.5%（677人中10人）で、そのうち男性で2.8%、女性で0.7%、年代別では19～24歳が2.8%で最も高くなっている。このような状態について希望する相談相手は、「精神科医」が最も多く、面談による相談希望が多い。また、相談する場合に重視することは、「悩みや不安の解決に結びつく提案や助言をしてくれる」や「相談ごとを否定しないで聴いてくれる」「医学的な助言をくれる」が多く、様々な原因が複合して発生することが多いひきこもり状態への適切な対応には、専門的な相談支援機能の整備・充実が必要である。

3 ひきこもりの長期化を防ぐための包括的な支援の充実

調査結果では、ひきこもり状態になった年齢は、20歳代が最も多く、そのきっかけは「学校になじめなかった」や「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」などが多くなっている。また、その背景には精神疾患や発達障がいなどがある場合も少なくなく、それによりその状態が長期化する場合もあるとされる。

さらに調査結果では、ひきこもりの状態になってからの期間が「7年以上」の方もおり、ひきこもりは長期化すればするほど、学校関係者や友人から疎遠になり、支援が困難になるおそれがある。そのため、ひきこもりの初期段階から学校関係者や地域の支援者、行政機関等が包括的に関わり、社会との関係を維持できる支援体制の充実が必要である。

4 将来に夢と希望を抱き、進みたい道を描けるための支援

調査結果では、多くの若者が、もっと自分に自信を持てたらよいと思い、また、今の自分に満足していないと回答している。さらに、自分にふさわしい仕事があると思ったり、いつか自分の夢を実現させる仕事をしたいと思ったりする若者は多く、「定職に就かない方が自由でいいと思う」という意見に対し否定的な考えを持つ若者も少なくない。

子ども・若者が将来に夢と希望を抱き、進みたい道を描くことができるよう、職業観やキャリア形成への支援、就労で失敗しても再チャレンジできる機会の充実などに取り組んでいくことが必要である。またこのことが予防的な視点でのひきこもり対策にもつながっていく。

5 社会性を育む機会や居場所の提供

調査結果では、地域社会で子育てに関する活動の支え手として参加したい活動として、「子どもと一緒に遊ぶ」(33.1%)で最も多く、次いで「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」(26.7%)で、以下、「子育てに関する情報提供」(26.0%)、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする」(25.6%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(25.1%)、「子どもにスポーツや勉強を教える」(25.0%)が続いている。このような社会貢献活動への参加や多世代間の交流を通じて、自己肯定感を高め、社会性や他者への思いやりを育むための支援の充実が必要である。

また、困難を有する子ども・若者が安心して過ごせる居場所について調査結果でみると、自宅等にひきこもりがちな若者が自宅以外で過ごしたいところは、「ひとりでいられるところ」が最も多くなっている。自分のペースでコミュニケーションをとり、同じ思いを共有できる仲間がいると実感できる居場所を提供する一方で、他者とのかかわりを無理強いされることがなく、その人にとって、ひとりでいることに居心地の良さを感じることができる居場所の充実が重要である。またそれに加えて、ユースプラザなどに設けられている居場所の周知や利用につながりやすい支援の充実が必要である。